

F ブレーキ

BR ブレーキシステム

作業上の注意	2	負圧式ブレーキブースター	15
・SRS エアバッグ、アクティブシートクッション及びプリテンショナーシートベルト付き車に関する注意	2	・車載上の点検、整備	15
・ブレーキシステムに関する注意	2	・取り外し、取り付け	15
準備品	3	バキュームパイピング	17
・特殊工具	3	・取り外し、取り付け	17
ブレーキペダル	4	・点検	17
・車載上の点検、調整	4	フロントディスクブレーキ	19
・取り外し、取り付け	5	・構成図 (CLZ25VD 型)	19
ブレーキフルード	6	・車載上の点検、整備	19
・交換	6	・ブレーキパッドの取り外し、取り付け	20
・注入及びエア抜き	6	・キャリパー ASSY の取り外し、取り付け ...	21
ブレーキパイピング・ブレーキホース	7	・キャリパー ASSY の分解、組み立て	21
・交換時期 (ブレーキホース)	7	リヤディスクブレーキ	27
・油圧配管	7	・構成図 (AD14VE 型)	27
・フロントブレーキパイピング・ブレーキホースの取り外し、取り付け	7	・車載上の点検、整備	27
・リヤブレーキパイピング・ブレーキホースの取り外し、取り付け	8	・ブレーキパッドの取り外し、取り付け	28
・点検	8	・キャリパー ASSY の取り外し、取り付け ...	29
ブレーキマスターシリンダー	9	・キャリパー ASSY の分解、組み立て	29
・交換時期 (マスターシリンダーのカップ)	9	サービスデータ	33
・マスターシリンダー ASSY	9	・ブレーキのきき具合	33
・取り外し、取り付け	9	・ブレーキペダル	33
・分解、組み立て	10	・チェックバルブ	33
		・ブレーキブースター	33
		・フロントディスクブレーキ	33
		・リヤディスクブレーキ	33
		・締付トルク	34

作業上の注意

PFP:00001

SRS エアバッグ、アクティブシートクッション及びプリテンショナーシートベルト付き車に関する注意

JFS0024Z

- 警告：**
- SRS エアバッグ、アクティブシートクッション及びプリテンショナーシートベルトシステム関連の構成部品脱着及びハーネス脱着は、キースイッチ OFF で、バッテリー端子を外してから 3 分以上放置後行うこと。(エアバッグセンサーユニット内の補助電源回路に蓄えられた電気を放電させるため。)
 - 構成部品の脱着に、エアツール及び電動ツール等は使用しないこと。
 - SRS エアバッグ、アクティブシートクッション及びプリテンショナーシートベルトシステム用のハーネスは、ハンダ等による修理は禁止である。また、ハーネスの噛み込み及び他部品との干渉に十分注意すること。
 - SRS エアバッグ、アクティブシートクッション及びプリテンショナーシートベルト回路及び単品状態での点検をするときはサーキットテスター等の電気テスターを使用しないこと。(テスターの微電流による作動防止)
 - エアバッグモジュール、アクティブシートクッション及びプリテンショナーシートベルトのコネクターに、ドライバー等の異物の差し込みは禁止である。(静電気による作動防止)
 - SRS エアバッグ、アクティブシートクッション及びプリテンショナーシートベルトのハーネスには、識別として黄色のハーネスコネクターを使用し、他のハーネスとの区別をしている。
 - 安全に整備作業を行うために、「SRS SRS エアバッグ」を参照すること。

ブレーキシステムに関する注意

JFS00250

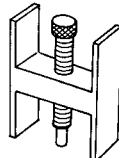
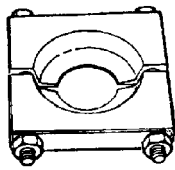
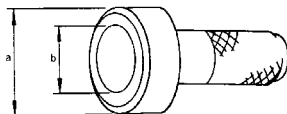
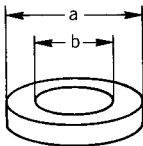
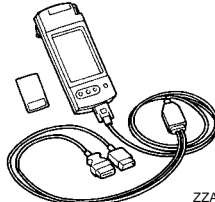
- ブレーキフルードはニッサンブレーキフルード No.2500 を使用する。
- 抜き取ったブレーキフルードは再使用しないこと。
- ブレーキフルードをボディーなどの塗装面に付着させないこと。万一付着した場合は、素早く拭き取り水洗いをする。
- マスターシリンダー、ディスクブレーキキャリパーなどの構成部品を洗浄するときは、きれいなブレーキフルードを使用すること。
- ガソリンあるいは軽油のような鉱物油類での洗浄は、ゴム類の特性を変化させ作動不良の原因となるため、行わないこと。
- ブレーキパイプフレアナットはフレアナットトルクレンチで確実に締め付けること。
- 重要保安部品のためブレーキ液漏れを発見した場合は、必ず部品を分解し異常があれば新品と交換すること。
- 作業を行う前には、キースイッチ OFF 位置にし、ABS アクチュエーターのコネクターを外すか、バッテリーターミナルを外しておくこと。

準備品

準備品
特殊工具

PF0:0002

JFS00251

名 称	用 途
<p>アウトプットロッドゲージ KV9910 02000</p>  <p style="text-align: right;">ZZA0756D</p>	<p>ブースターのアウトプットロッド 寸法調整</p>
<p>ベアリングプレーサー ST303 1000</p>  <p style="text-align: right;">ZZA0700D</p>	<p>センサーローター取り外し</p>
<p>ドリフト KV381 00500 a: φ80mm b: φ60mm</p>  <p style="text-align: right;">ZZA0811D</p>	<p>センサーローター取り付け</p>
<p>インサーター ST3002 2000 a: φ110mm b: φ46mm</p>  <p style="text-align: right;">ZZA1179D</p>	<p>センサーローター取り付け</p>
<p>電子システム診断テスター CONSULT-II EG1187 0000 診断用プログラムカード EG1187 0100</p>  <p style="text-align: right;">ZZA1207D</p>	<p>自己診断</p>

A

B

C

D

E

BR

G

H

I

J

K

L

ブレーキペダル

FFP:46501

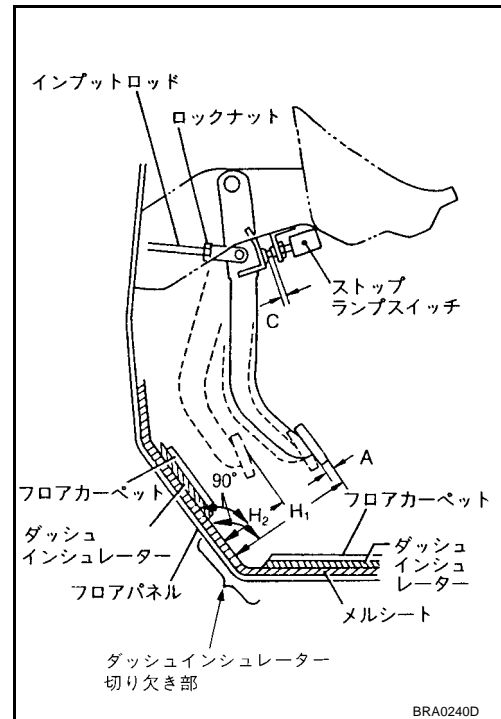
車載上の点検、調整

JFS00252

遊び及び踏み込んだときの床板とのすき間

1. ダッシュパネルから、ブレーキペダル上面までの高さを点検する。
2. 下記の寸法に応じ高さを調整する。

H1	: ペダル高さ	: 160 ~ 170mm
H2	: 踏み込み時ペダル高さ(エンジン回転時、踏力 490N{ 50kg }時)	: 75mm 以上
C	: ストッパーラバーとストップランプSW及びブレーキSW(車間自動制御システム付き車)のネジ部端面とのすき間	: 0.74 ~ 1.96mm
A	: ペダルの遊び	: 3 ~ 11mm



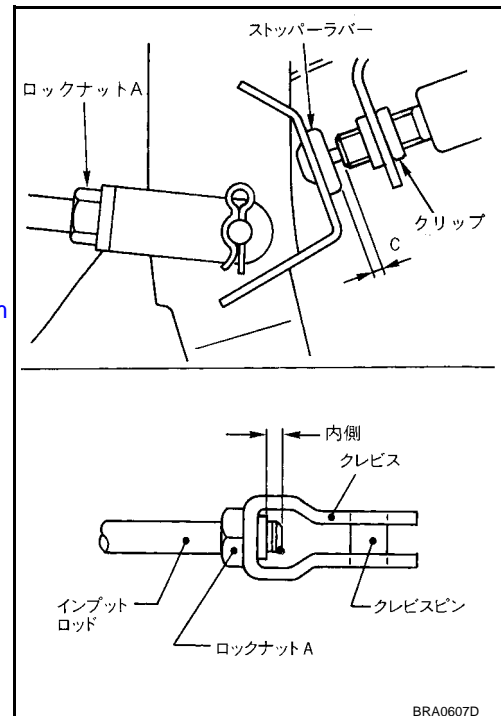
BRA0240D

調整

1. ストップランプスイッチ及びブレーキスイッチ(車間自動制御システム付き車)を左に 45° 回して緩める。
2. インプットロッドのロックナット A を緩め、インプットロッドを回し、ペダルを規定の高さに合わせ、ロックナット A を締め付ける。
注意: インプットロッド先端のネジ部がクレビスの内側に位置していることを確認すること。

ロックナット A 締めトルク : 15.7 ~ 21.6N・m{ 1.6 ~ 2.2Kg・m

3. ペダルを手で手前に引き寄せ固定した状態で、ストップランプスイッチ及びブレーキスイッチ(車間自動制御システム付き車)のネジ部端面がストッパーラバーに当たるまでスイッチを押し込む。
4. ストップランプスイッチ及びブレーキスイッチ(車間自動制御システム付き車)のネジ部端面をストッパーラバーに押し当てたまま、スイッチを右に 45° 回して固定する。
注意: ストッパーラバーとストップランプスイッチ及びブレーキスイッチ(車間自動制御システム付き車)ネジ部端面とのすき間 C 部が規定値内であることを確認すること。



BRA0607D

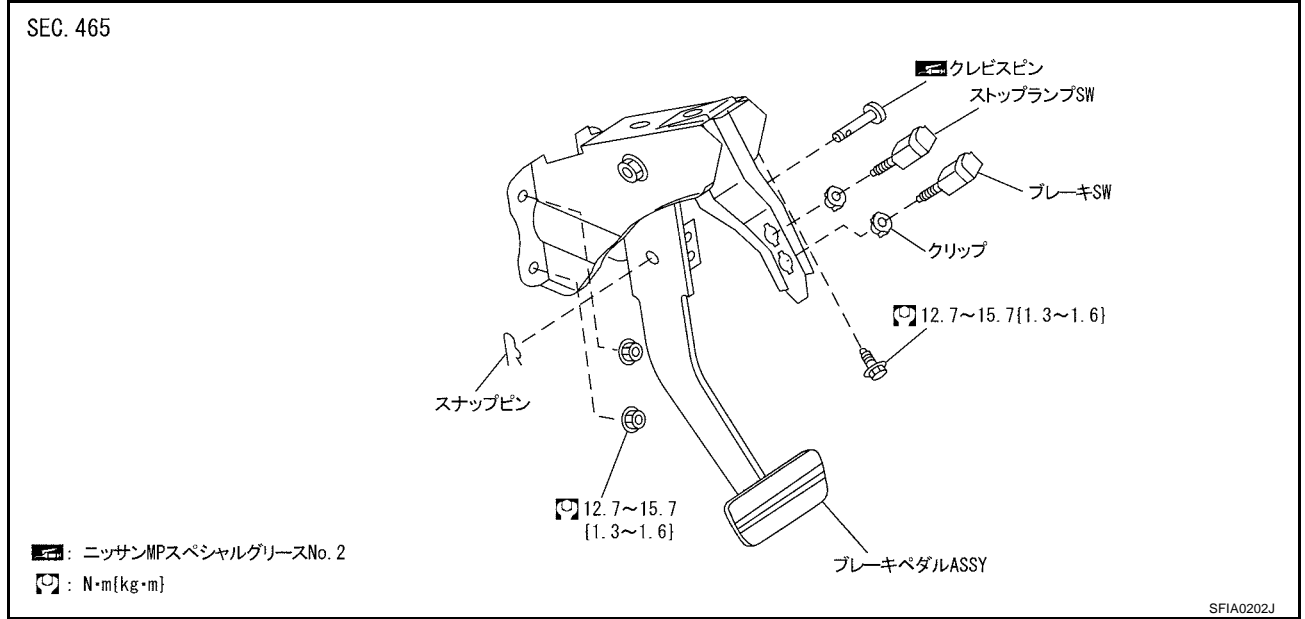
5. ペダルの遊びを点検する。
注意: ペダルを離れたとき、ストップランプが消えていることを確認すること。
6. エンジンを始動し、ブレーキペダルの踏み込み時の高さを点検する。

ブレーキペダル

取り外し、取り付け

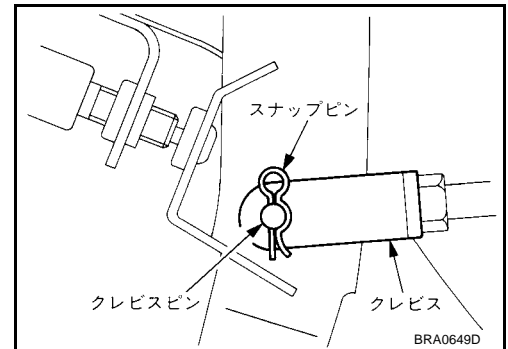
JFS00253

構成図



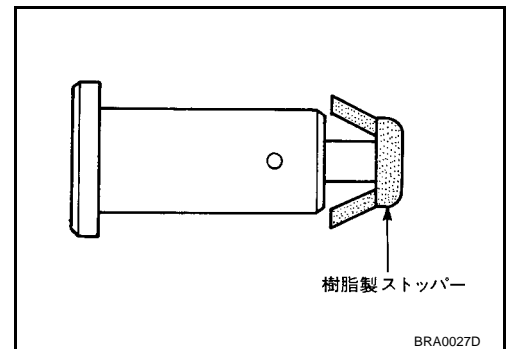
取り外し

1. インストロアドライバーパネルを取り外す。
2. ストップランプスイッチ及びブレーキスイッチ(車間自動制御システム付き車)をペダルASSYより取り外す。
3. ブレーキブースターのクレビスより、スナップピン及びクレビスピンを取り外す。
4. ブラケットの取付ナット及び取付ボルトを取り外し、ペダルASSYを車両より取り外す。



取り外し後の点検

- ブレーキペダルの曲がり、損傷及び溶接部のひび割れが無い点検し、異常がある場合は交換する。
- クレビスピン及び樹脂ストッパー部の損傷及び変形が無い点検し、異常がある場合はクレビスピンを交換する。



取り付け

下記の作業に注意し、取り外しの逆の手順で行う。

- ブレーキペダルASSYを車両に取り付け後、ブレーキペダルの調整を行う。

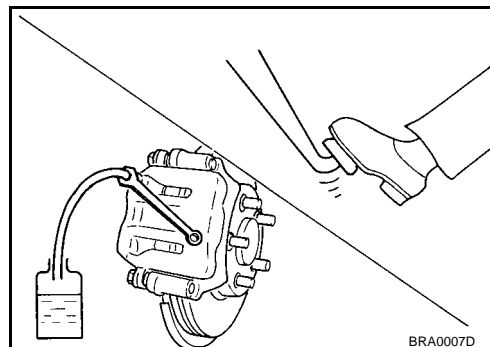
ブレーキフルード 交換

PFP:KN100

JFS00254

交換時期

自家用	: 初回 3 年目、その後 2 年ごと
レンタカー	: 2 年ごと
事業用 (レンタカーを除く)	: 1 年ごと



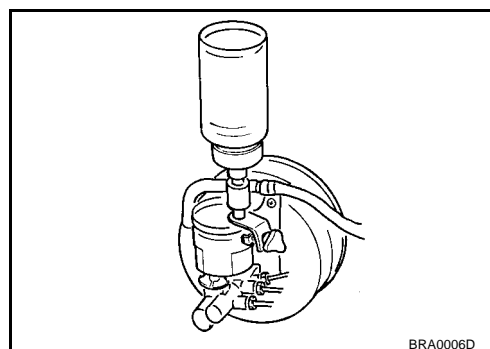
抜き取り

1. エアブリーダーにビニールチューブなどを接続する。
2. ブレーキペダルを踏み込み、各輪のエアブリーダーよりブレーキフルードを徐々に排出する。

注入及びエア抜き

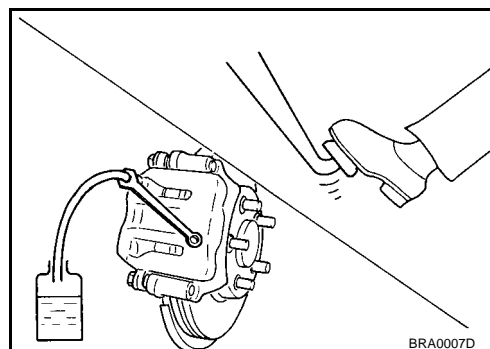
JFS00255

1. キースイッチを OFF 位置にし、ABS アクチュエーターコネクタを外す。
2. リザーバタンク内に異物などが入っていないことを確認し、新しいブレーキフルードを入れる。
3. リヤ左輪のエアブリーダーにビニールチューブなどを継ぎ、エアブリーダーを緩める。
4. ペダルをゆっくりフルストロークまで踏み込み、戻す。さらに 2 ~ 3 秒間隔で、新しいブレーキフルードが出てくるまでこの作業を繰り返し行い、ペダルを踏み込んだ状態でエアブリーダーを閉じる。
5. ペダルを数回踏み、ペダルを踏み込んだ状態を保持し、リヤ左輪のエアブリーダーを緩めてエア抜きをし、素早く締め付ける。
6. エアブリーダーを規定トルクで締め付ける。



締付トルク : 6.9 ~ 8.8N·m { 0.7 ~ 0.9kg·m }

7. 次に 3 ~ 6 の作業要領で、マスターシリンダーのリザーバタンク内に半分以上の量があるように補充しながらフロント右輪、リヤ右輪、フロント左輪の順にエア抜き作業を行う。



注意: エア抜き作業中は、アクチュエーターの接続部を緩めないこと。

ブレーキパイピング・ブレーキホース

PF:46210

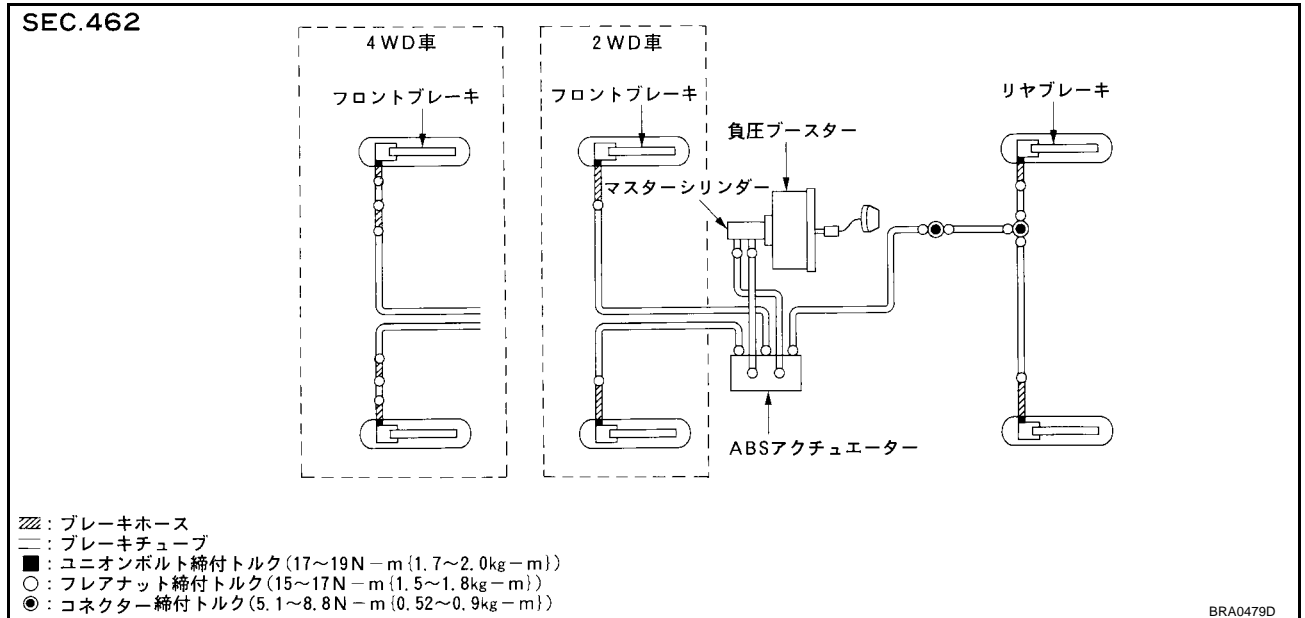
交換時期 (ブレーキホース)

JFS00256

自家用	-
レンタカー	4年ごと
事業用 (レンタカーを除く)	2年ごと

油圧配管

JFS00257



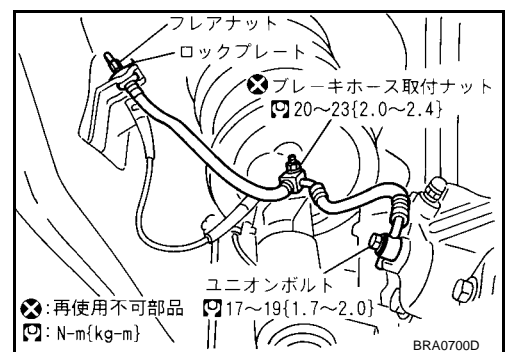
- 注意:**
- 取り付け時にねじれ及び折れがないこと。
 - ステアリングを左右に転舵したとき、他部品に干渉がないこと。
 - 重要保安部品のため、ブレーキフルードの漏れを発見した場合は、必ず部品を分解し、異常があれば新品と交換すること。

フロントブレーキパイピング・ブレーキホースの取り外し、取り付け

JFS00258

取り外し

1. エアブリーダーにビニールチューブを接続する。
2. ブレーキペダルを踏み込み、各輪のエアブリーダーよりブレーキフルードを徐々に排出する。
3. ブレーキ経路の接続部にゴミやホコリなどの異物が入らないようカバーをする。
4. フレアナットレンチを用いて、ブレーキチューブをブレーキホースより取り外す。ユニオンボルトを外しブレーキホースをキャリパー ASSY より取り外す。
5. ロックプレートを取り外す。
6. 取付ナットを外しブレーキホースを車両より取り外す。



取り付け

1. ブレーキホースをキャリパー ASSY の突起部に合わせて取り付け、ユニオンボルトを規定トルクで締め付ける。
- 注意:**
- 銅ワッシャーは再使用不可部品のため、再使用しないこと。
2. 車両側ブレーキチューブにブレーキホースを取り付け、フレアナットを手で回るところまで仮締めし、ブラケットに取り付け、ロックプレートで固定した後、規定トルクで締め付ける。

ブレーキパイピング・ブレーキホース

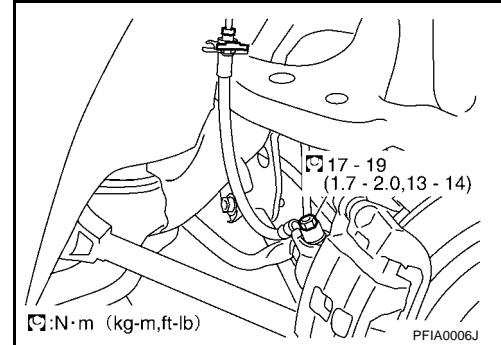
3. ブレーキホースを車両に取り付け、取付ナットを規定トルクで締め付ける。
4. 作業終了後エア抜きをする。

リヤブレーキパイピング・ブレーキホースの取り外し、取り付け

JFS00259

取り外し

1. エアブリーダーにビニールチューブを接続する。
2. ブレーキペダルを踏み込み、各輪のエアブリーダーよりブレーキフルードを徐々に排出する。
3. ブレーキ経路の接続部にゴミやホコリなどの異物が入らないようカバーをする。
4. フレアナットレンチを用いて、ブレーキチューブをブレーキホースより取り外す。
5. ユニオンボルトを外し、ブレーキホースをキャリパー ASSY より取り外す。
6. ロックプレートを取り外し、ブレーキホースを車両より取り外す。



取り付け

1. ブレーキホースの L 字ピンをキャリパー ASSY の位置決め穴に合わせて取り付け、ユニオンボルトを規定トルクで締め付ける。
注意：銅ワッシャーは、再使用不可部品のため再使用しないこと。
2. ブレーキホースを車両にロックプレートで固定した後、ブレーキチューブのフレアナットを手で回るところまで仮締めした後、規定トルクで締め付ける。
3. 作業終了後、エア抜きを行う。

点検

JFS0025A

注意：接続部に漏れが発生したら、締め直すか、必要によっては損傷した部品を交換すること。

1. ホース、チューブ、接続部の液漏れ、傷、ねじれ、変形、他部品との干渉及び接続部に緩みがないか点検する。
2. エンジン回転状態でブレーキペダルに踏力 785N { 80kg } を加え、約 5 秒間保持したときに、各部からの液漏れがないことを点検する。

ブレーキマスターシリンダー

ブレーキマスターシリンダー 交換時期（マスターシリンダーのカップ）

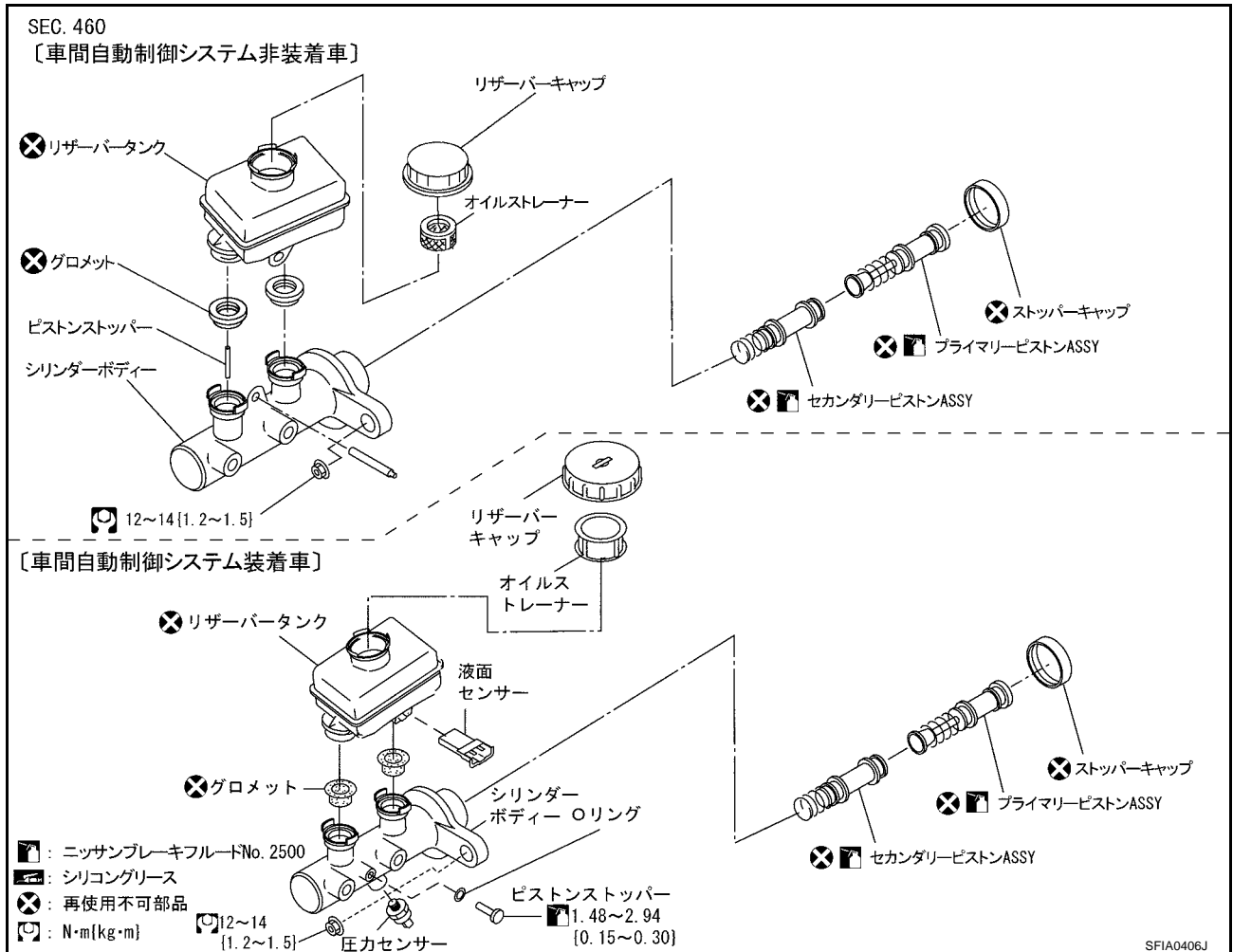
PF:46010

JFS002R5

自家用 : -
レンタカー : 4年ごと

マスターシリンダー ASSY

JFS002R6



取り外し、取り付け

JFS002FA

注意： ブレーキフルードをボディなどの塗装面に付着させないこと。塗膜にダメージを与える恐れがあるので、万一付着した場合は、素早く拭き取り水洗いをする。

取り外し

1. ブレーキフルードを抜き取る。
2. 液面センサー、圧力センサー（車間自動制御システム付き車のみ）のハーネスコネクターを取り外す。
3. マスターシリンダー ASSY とブレーキチューブをフレアナットレンチを用いて分離する。
4. マスターシリンダー ASSY 取付ナットを取り外し、マスターシリンダー ASSY を車両より取り外す。

取り付け

注意：

- ブレーキフルードはニッサンブレーキフルード No.2500 を使用すること。
- 抜き取ったブレーキフルードは再使用しないこと。

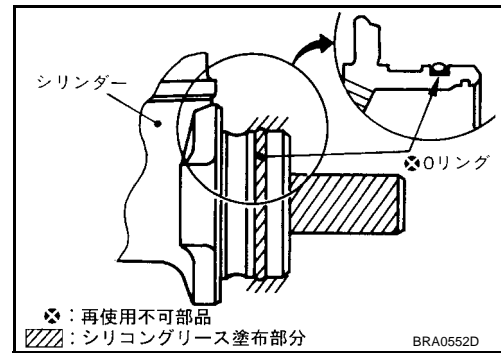
1. マスターシリンダー ASSY にブレーキチューブを取り付け、フレアナットを手で仮締めする。

ブレーキマスターシリンダー

2. マスターシリンダー ASSY をブレーキブースター ASSY に取り付け、取付ナットを規定トルクで締め付ける。
3. ブレーキチューブのフレアナットを規定トルクで締め付ける。

締付トルク : 15 ~ 17N・m { 1.5 ~ 1.8kg・m }

4. 新品のブレーキフルードを補充しブレーキ配管エア抜きを行う。「ブレーキフルード」の「[注入及びエア抜き](#)」(BR-6 ページ)を参照すること。



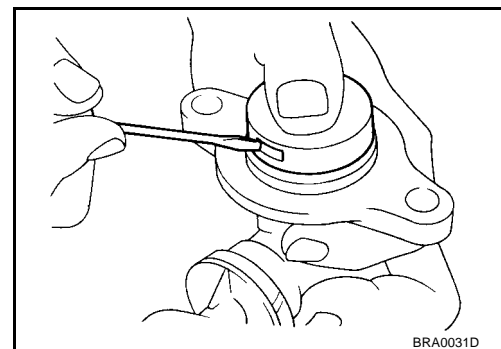
分解、組み立て

JFS002FB

分解

車間自動制御システム非装着車

1. 図のようにマイナスドライバーを用いて、ストッパーキャップのツメを起し、マスターシリンダーよりストッパーキャップを取り外す。このときマスターシリンダー内のピストンが飛び出す恐れがあるため、ストッパーキャップを押さえながら行うこと。



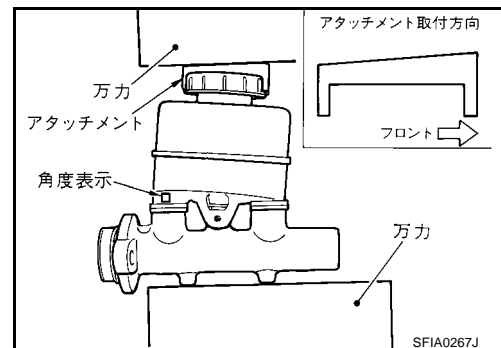
2. リザーバーキャップにインナーキット内のアタッチメントを図のように取り付ける。

注意: リザーバーキャップにアタッチメントを取り付ける際、アタッチメントの取り付け方向に注意して取り付けること。

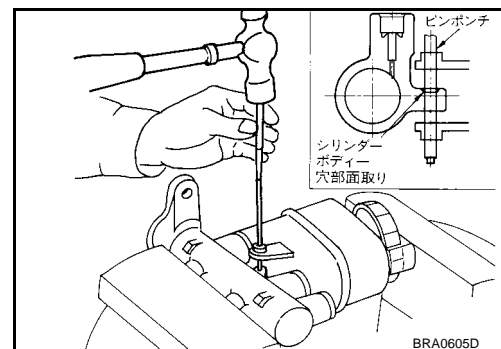
3. マスターシリンダーASSY を万力で固定する。このときリザーバータンクとシリンダーボディーを固定するピンがリザーバータンクのピン挿入穴に接しないように締め付けること。

注意: ・シリンダーボディーのピン挿入穴に面取りがある側を上にして万力で挟むこと。

- ・マスターシリンダー ASSY を万力で固定する際、締め付け過ぎると損傷を与える恐れがあるため十分に注意して締め付けること。

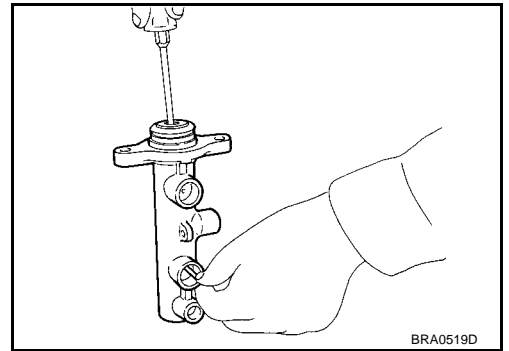


4. ピンポンチ (汎用工具: 直径約 4mm) を用いて、リザーバータンク取付ピンを取り外す。
5. マスターシリンダー ASSY を万力より取り外す。
6. リザーバータンク及びグロメットをシリンダーボディーより取り外す。

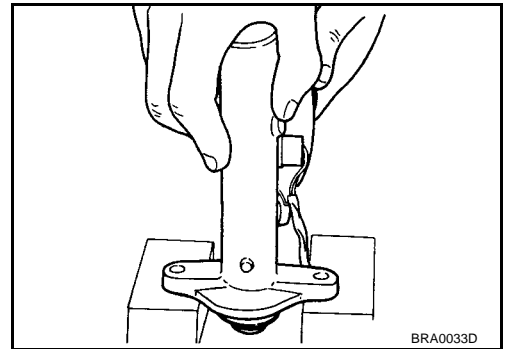


ブレーキマスターシリンダー

7. プラスドライバーを用いてピストンを押し込み、ピストンストッパーをシリンダーボディより取り外す。
8. プライマリーピストン ASSY をシリンダー内壁に傷を付けないようまっすぐに引き抜く。



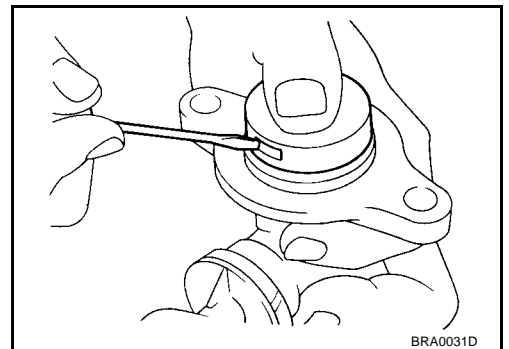
9. セカンダリーピストン ASSY を図のように、フランジ部を木片等、軟らかいもので軽くたたき、シリンダー内壁に傷を付けないようまっすぐ引き抜く。



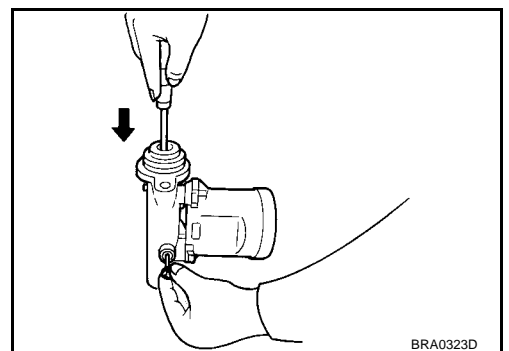
分解

車間自動制御システム装着車

1. 図のようにマイナスドライバーを用いて、ストッパーキャップのツメを起し、マスターシリンダーよりストッパーキャップを取り外す。このときマスターシリンダー内のピストンが飛び出す恐れがあるため、ストッパーキャップを押さえながら行うこと。



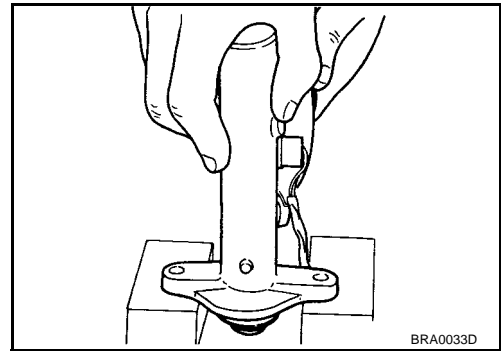
2. ピストンストッパーをシリンダーボディより取り外す。このとき図のようにプラスドライバーを用いて、ピストンを押し込んだ状態でピストンストッパーを取り外すこと。



ブレーキマスターシリンダー

3. プライマリーピストン ASSY をシリンダー内壁に傷を付けないようまっすぐに引き抜く。
4. セカンダリーピストン ASSY を図のようにフランジ部を木片など、軟らかいもので軽くたたき、シリンダー内壁に傷を付けないようまっすぐに引き抜く。
5. リザーバタンクを取り外す。

注意: リザーバタンクは、取り外す必要があるとき以外は外さないこと。



分解後の点検

以下の項目を点検する。

マスターシリンダー

- シリンダー内壁の損傷、摩耗、さび及びピンホールがないか点検し、異常がある場合は交換する。

ピストン

- ピストンカップの変形または傷がないか点検し、異常がある場合は交換する。

組み立て

注意: • 洗浄、組み立ての際、灯油、ガソリン等の鉱物系油及びニッサンラバーグリース (KRE00 00010、KRE00 00010 01) は絶対に使用しないこと。

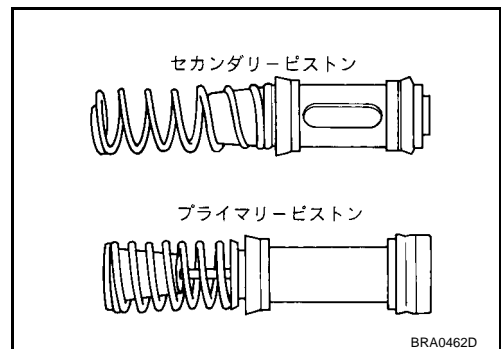
- シリンダー内壁及びピストン、カップシール等にゴミやホコリ等の異物が付着していないことを確認し、組立時工具で傷を付けないよう、注意して行うこと。
- 各部品は、落下させないこと。また、万一を落下させた場合、落下した部品を使用しないこと。

車間自動制御システム非装着車

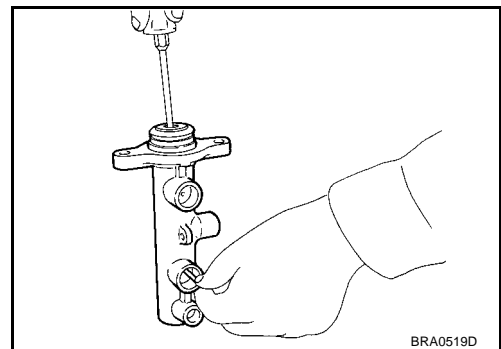
1. シリンダーボディー内面及びピストン ASSY の接触面にニッサンブレーキフルード No.2500 又は、ニッサンラパールブリカント (KRE12 00030) を塗布し、シリンダーボディーにセカンダリーピストン ASSY を挿入する。次にプライマリーピストン ASSY を挿入する。

注意: • プライマリーピストン ASSY 及びセカンダリーピストン ASSY は再使用不可部品のため、再使用しないこと。

- インナーキットは必ず ASSY で交換すること。
- ピストンカップの取付方向に注意し、シリンダー内壁にかみ込まないようまっすぐに挿入すること。



2. シリンダーボディーのセカンダリー側タンクボス穴から、セカンダリーピストンのスリットを目視で確認してピストンストッパーを取り付ける。



ブレーキマスターシリンダー

3. ストッパーキャップを取り付ける。新品のストッパーキャップでピストンを押さえながら、ストッパーキャップのツメがシリンダー溝に掛かるまで確実に押し込んで取り付ける。

注意： ストッパーキャップは再使用不可部品のため、再使用しないこと。

4. グロメットにニッサンブレーキフルード No.2500 又はニッサンラパールブリカント (KRE12 00030) を塗布し、マスターシリンダーに押し込んで取り付ける。

注意： グロメットは再使用不可部品のため、再使用しないこと。

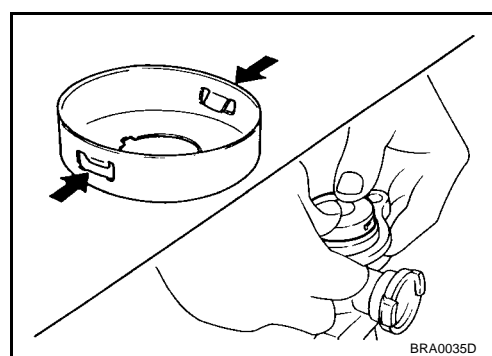
5. リザーバキャップにインナーキット内のアタッチメントを、分解時の要領で取り付ける。

注意： アタッチメントの取付方向に注意して取り付けること。

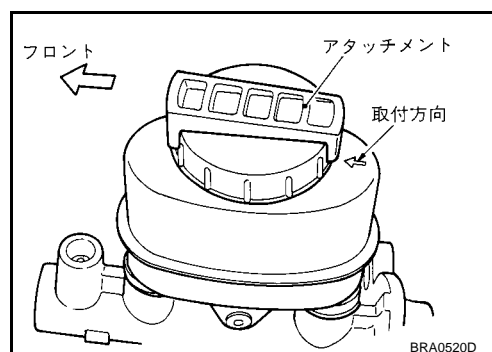
6. リザーバタンクの矢印方向を前方に向けシリンダーボディにセットし、それぞれのピン挿入穴が一致するまで万力で締め付け固定する。

注意： シリンダーボディのピン挿入穴に面取りがある側を上にして万力で挟むこと。

- マスターシリンダー ASSY を万力で固定する際、締め付け過ぎると損傷を与える恐れがあるため、十分に注意して締め付けること。



BRA0035D

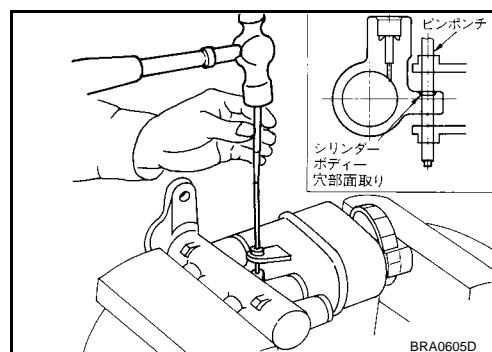


BRA0520D

7. ピンポンチ (汎用工具：直径約 4mm) を用いて、リザーバタンク取付ピンを取り付ける。

注意： リザーバタンク取付ピンは再使用不可部品のため、再使用しないこと。

- ピンの挿入はシリンダーボディのピン挿入穴に面取りがある側から行うこと。



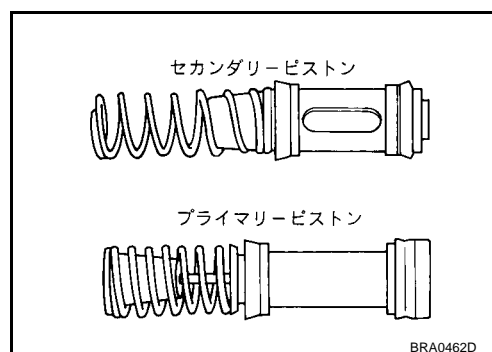
BRA0605D

車間自動制御システム装着車

1. シリンダーボディ内面及びピストン ASSY の接触面にニッサンブレーキフルード No.2500 又は、ニッサンラパールブリカント (KRE12 00030) を塗布し、シリンダーボディにセカンダリーピストン ASSY を挿入する。次にプライマリーピストン ASSY を挿入する。

注意： プライマリーピストン ASSY 及びセカンダリーピストン ASSY は再使用不可部品のため、再使用しないこと。

- インナーキットは必ず ASSY で交換すること。
- ピストンカップの取付方向に注意し、シリンダー内壁にかみ込まないようにまっすぐに挿入すること。



BRA0462D

ブレーキマスターシリンダー

2. ピストンストッパーの軸方向にピストンの中央部のスリットの向きを合わせて組み込み、シリンダーボディのピストンストッパー取付穴部よりセカンダリーピストンのスリットを目視で確認してピストンストッパーを組み付ける

注意：ピストンピンのOリングは、リペアーキット内の新品と必ず交換すること。

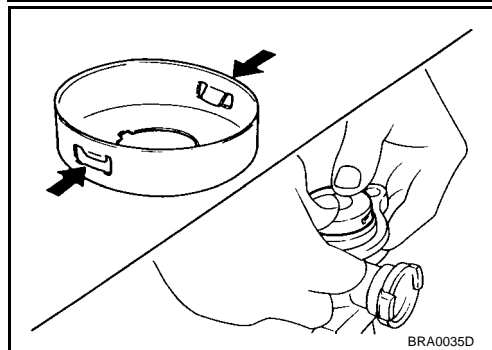
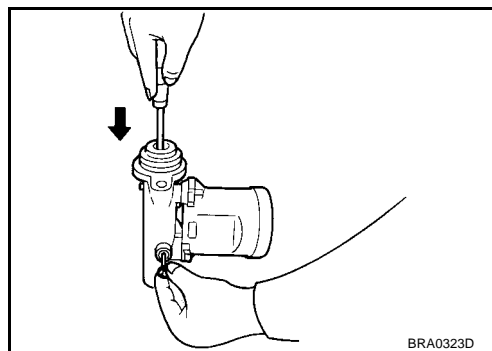
3. ストッパーキャップを取り付ける。新品のストッパーキャップでピストンを押さえながら、ストッパーキャップのツメがシリンダー溝に掛かるまで確実に押し込んで取り付ける。

注意：ストッパーキャップは再使用不可部品のため、再使用しないこと。

4. グロメットにニッサンブレーキフルード No.2500 又はニッサンラバールプリカント(KRE12 00030)を塗布し、マスターシリンダーに押し込んで取り付ける。

注意：グロメットは再使用不可部品のため、再使用しないこと。

5. シリンダーボディに新品のリザーバータンクを押し込んで取り付ける。



負圧式ブレーキブースター

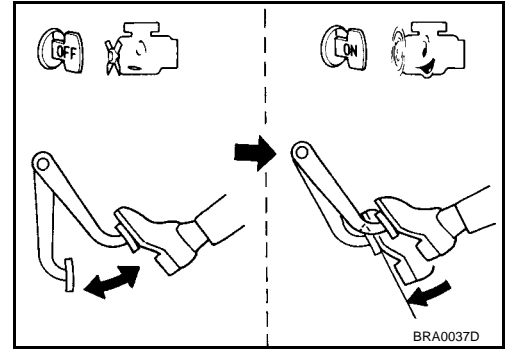
PF:47200

車載上の点検、整備

JFS0025D

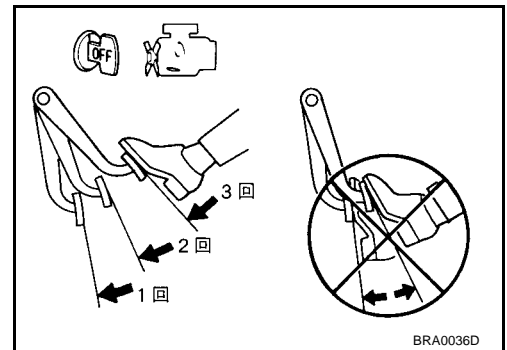
機能点検

エンジン停止状態で、ブレーキペダルを5秒間隔で数回踏むなどして真空圧を大気圧にする。ブレーキペダルを強く踏み込んだ状態でエンジンを始動し、真空圧が基準値に達したとき、ブレーキペダルと床板とのすき間が減少するかを点検する。



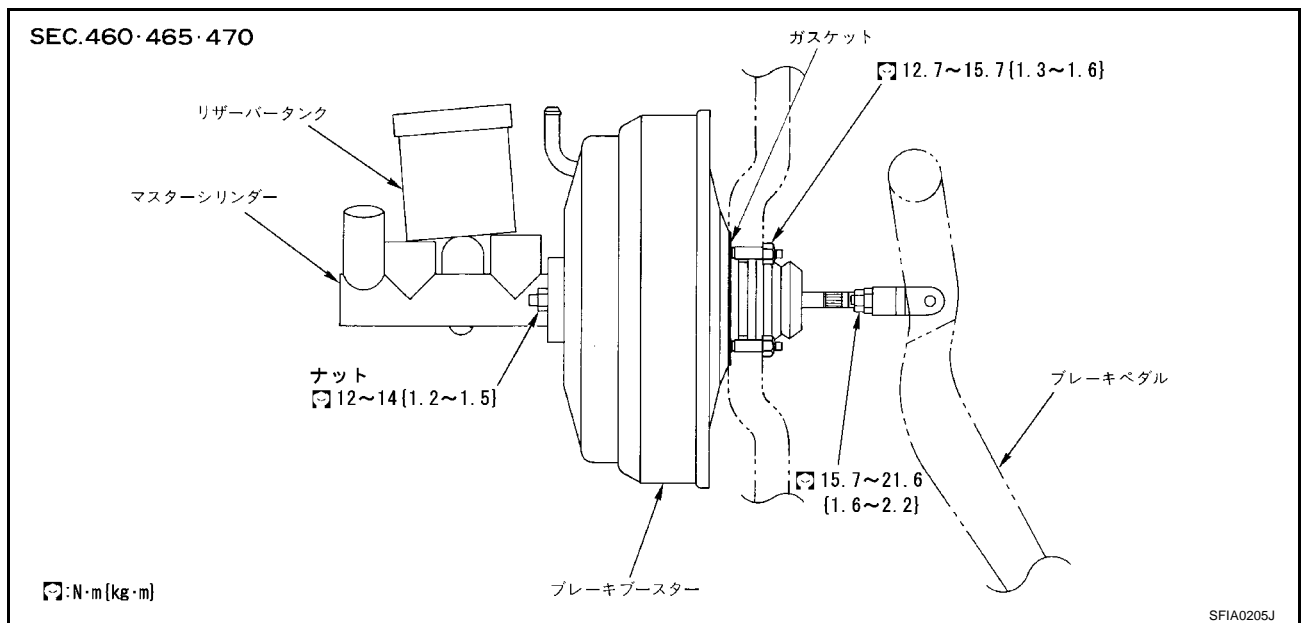
気密点検

- エンジンをアイドリングで約1分間回転させブースターに負圧をかけた後、エンジンを停止させ、真空圧が大気圧になるまでブレーキペダルを5秒間隔で普通に数回踏み込んだとき1回目より2回目、3回目と踏み込むにしたがってブレーキペダルと床板とのすき間が増大するかを点検する。
- エンジンがかかっている状態でブレーキペダルを踏み込み、ペダルを踏み込んだままエンジンを止める。30秒以上ペダルを踏み込んだ状態を保持した後、ペダルストロークが変化しないことを点検する。



取り外し、取り付け

JFS0025E



取り外し

- 注意:**
- ブレーキブースターの脱着作業中は、ブレーキ配管を変形させたり曲げたりしないように注意すること。
 - クレビスピンが損傷していたら交換する。
 - ブレーキブースターのスタッドボルトのネジ山をつぶさぬ様注意すること。斜めに取り付けるとダッシュパネルでネジ山を損傷させる恐れがある。
 - チェックバルブは向きを間違えぬ様取り付けること。

1. ブレーキブースターよりバキュームパイピングを取り外す。

負圧式ブレーキブースター

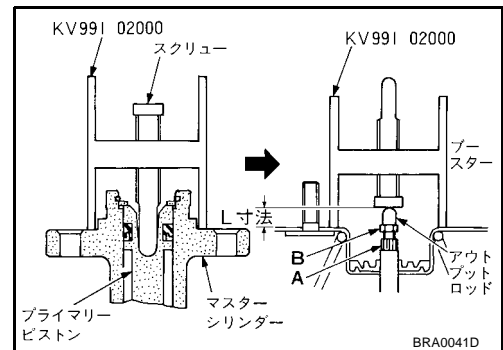
2. マスターシリンダーを取り外す。
3. 車両室内より、クレビス部のスナップピン及びクレビスピンを取り外し、ブレーキペダルよりインプットロッドを取り外す。
4. ブレーキブースターとブレーキペダル ASSY の取付ナットを取り外す。
5. エンジンルーム側より、ブースター ASSY を取り外す。

取り外し後の点検

アウトロッド長さの点検

1. バキュームハンディポンプを用いて、ブースター内の負圧を -66.7kPa { -500mmHg } にする。
2. アウトプットロッドゲージ (特殊工具) をマスターシリンダーにセットし、ゲージ先端がプライマリーピストンに接するまでスクリューを回す。
3. アウトプットロッドゲージ (特殊工具) を逆にし、アウトプットロッドとスクリューのすき間が 0 になるよう、A 部を固定し B 部で調整する。

負圧 66.7kPa { -500mmHg } 時の L 寸法参考値 : 10.4mm



取り付け

1. 図 B 寸法が基準値になるように、インプットロッドの長さをロックナットを緩めて調整する。

B 寸法基準値 : 125mm

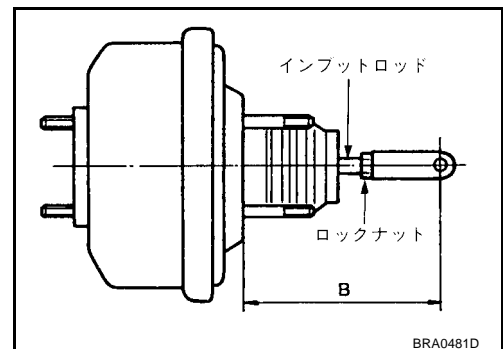
2. B 寸法を調整後、ロックナットを仮締めし、ブースター ASSY を車両に取り付ける。

注意: ブースター ASSY と車両間のガスケットを必ず取り付けること。

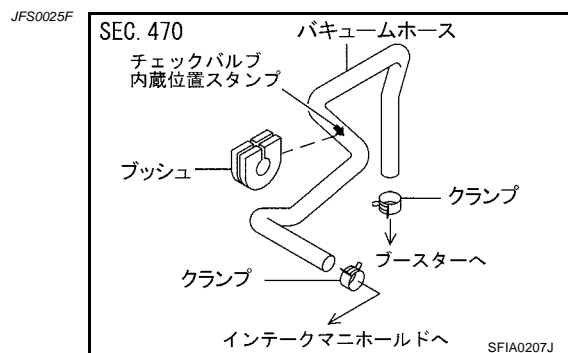
3. ブレーキペダル部とインプットロッドのクレビス部を接続する。
4. ペダル ASSY の取付ナットを取り付け、規定トルクで締め付ける。
5. マスターシリンダーをブースター ASSY に取り付ける。

注意: マスターシリンダー ASSY を取り付ける際は「マスターシリンダー」の「[取り付け](#)」(BR-9 ページ) を参照すること。

6. ブレーキペダルの高さ及び遊びを調整する。
7. インプットロッドのロックナットを規定トルクで締め付ける。
8. エア抜きを行う。「[注入及びエア抜き](#)」(BR-6 ページ) を参照すること。

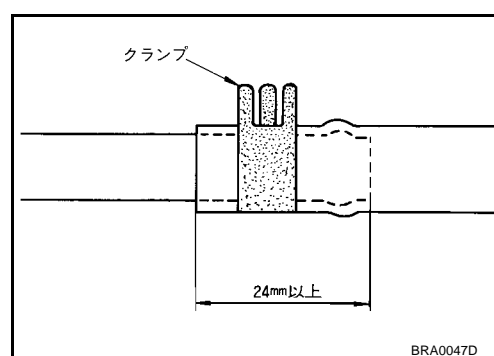


バキュームパイピング
取り外し、取り付け



注意: • チェックバルブがバキュームホースに内蔵されているため、取り付けはバキュームホースのスタンプ又は、ラベルの取付方向に従い取り付け。逆に取り付けると、プースターが正常に作動しないので、取付方向を絶対に間違えないこと。

- バキュームホースは、24mm 以上差し込むこと。
- 組み付け時、潤滑油を使用しないこと。



点検

目視点検

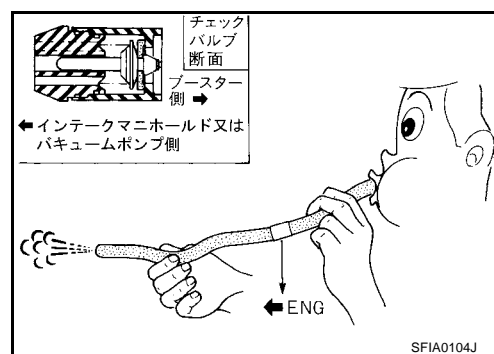
誤組付、損傷、劣化が無い点検する。

チェックバルブ点検

簡易点検

チェックバルブはバキュームホースに内蔵されているため、図のようにプースター側より息を吹き込んだとき吹き込めて、逆方向から吹き込んだとき吹き込めなければ正常である。

注意: バキュームホースに異常があればチェックバルブと一体で交換すること。



バキュームパイピング

気密点検

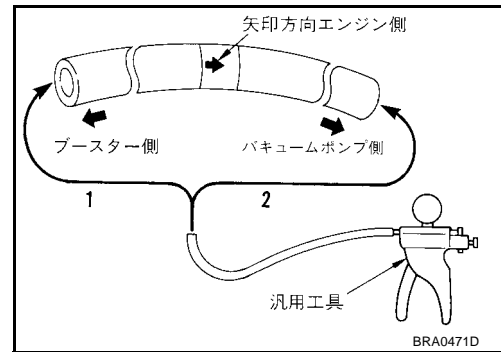
バキュームハンディポンプ（汎用工具）により点検する。

ブースター側に継いだ場合（１）

: 負圧 66.7kPa { -500mmHg } のとき真空度の低下
が 15 秒間で 1.3kPa { 10mmHg } 以内

エンジン側に継いだ場合（２）

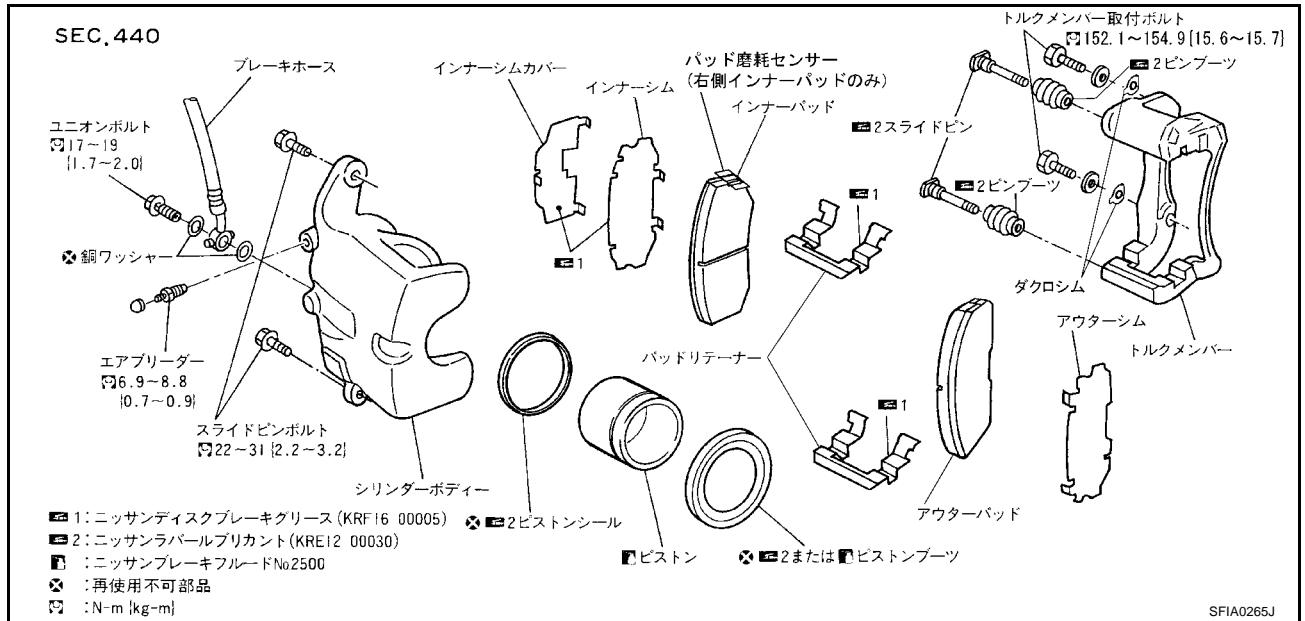
: 負圧が加わらない



フロントディスクブレーキ
構成図 (CLZ25VD 型)

PFP:41000

JFS0025H



- 注意:**
- キャリパー及びパッドに付着した粉じんは、集じん機で集め清掃する。エアブローなどで飛散させないこと。
 - シリンダーボディーを外している間、ピストンが急に飛び出す恐れがあるため、ブレーキペダルを絶対に踏み込まないこと。
 - キャリパー ASSY の分解又は交換を除いては、トルクメンバー及びブレーキホースの取付ボルトを取り外す必要はない。なお、このときブレーキホースを引き伸ばさないようにシリンダーボディーを針金などで吊るしておくこと。
 - ピストンブーツに損傷を与えないこと。
 - ブレーキパッドを交換するときは、シム及びシムカバーをセットで交換すること。
 - ブレーキフルードをローターに付着させないこと。
 - パッド摩耗センサー付パッドは右側キャリパー車両外側に装着すること。摩耗センサーはディスク回転レーディング側に位置する。

車載上の点検、整備

JFS0025J

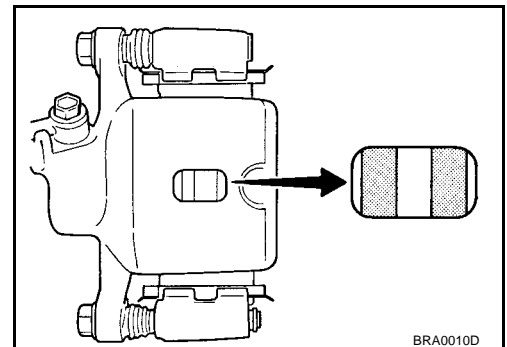
交換時期 (ディスクキャリパーのピストンシール及びダストシール)

自家用 : -
事業用 (レンタカーを含む) : 2年ごと

パッドの摩耗点検

- リフトアップなどの状態で、ホイールを取り外しシリンダーボディーの点検穴から、パッドの厚さを点検する。また、必要に応じてスケールなどにより点検する。

標準厚さ : 9.5mm
限度厚さ : 2.0mm



ブレーキパッドの取り外し、取り付け

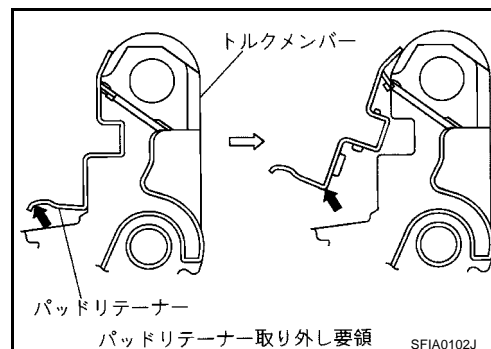
JFS0025J

取り外し

- 注意:**
- キャリパー及びパッドに付着した粉じんは、集じん機で集め清掃し、エアブローなどで飛散させないこと。
 - シリンダーボディを外している間、ピストンが飛び出す恐れがあるため、ブレーキペダルを絶対に踏み込まないこと。また、このときブレーキホースを引き伸ばさないようにシリンダーボディを針金などで吊るしておくこと。
 - キャリパー ASSY の分解又は交換を除いては、トルクメンバー及びブレーキホースの取付ボルトを取り外す必要はない。
 - シムに著しいさびの発生がある場合は新品に交換すること。
 - ブレーキパッドを交換するときは、必ずインナーシム、アウターシム、シムカバーをセットで交換すること。

1. スライドピンボルト（下側1本）を取り外す。
2. シリンダーボディを針金などで吊して、パッド、パッドリテーナー及びシムをトルクメンバーより取り外す。

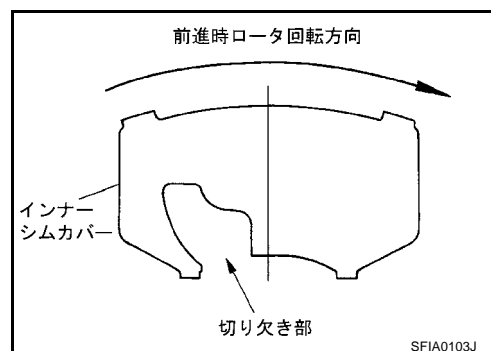
- 注意:**
- パッドリテーナーをトルクメンバーより取り外す際は、パッドリテーナーを変形させないように図のように矢印方向に持ち上げて取り外す。
 - ピストンブーツに損傷を与えないこと。
 - ブレーキフルードをローターに付着させないこと。



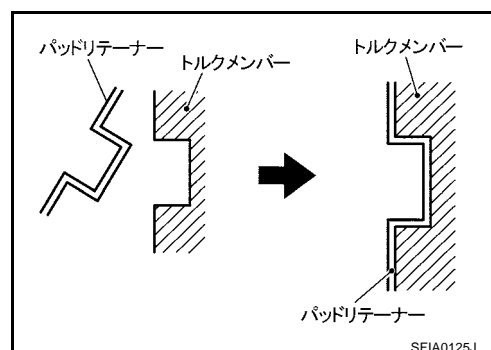
取り付け

1. インナーシム、シムカバーをインナーパッドに、アウターシムをアウターパッドに取り付ける。
2. パッドリテーナーのパッド当たり面にニッサンディスクブレーキグリス（KRF16 00005）を塗布し、トルクメンバーにパッドリテーナー及びパッドを取り付ける。
3. シリンダーボディをトルクメンバーに取り付ける。

- 注意:**
- シムカバーは方向性があるので間違いのないように確実に取り付けること。
 - パッドを新品に交換する場合、パッドが取り付けられる位置までピストンを押し込むことにより、ブレーキフルードがマスターシリンダーのリザーバータンクに戻るため、リザーバータンクのブレーキフルードのレベルに注意すること。
 - 図のようにパッドリテーナーを取り付ける際にはトルクメンバーより浮き上がらないよう確実に組み付けること。



4. スライドピンボルト（下側1本）を取り付け、規定トルクで締め付ける。
5. ブレーキの引きずり点検を行う。

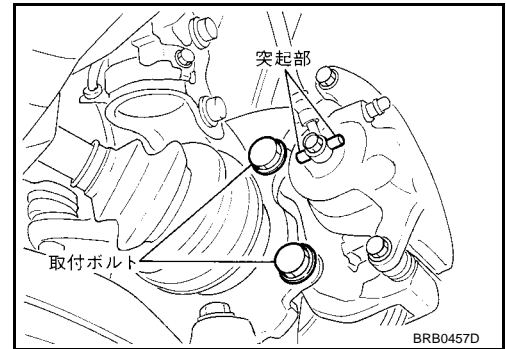


キャリパー ASSY の取り外し、取り付け

JFS0025K

取り外し

1. エアブリーダーにビニールチューブを接続する。
2. ブレーキペダルを踏み込み、エアブリーダーより徐々にブレーキフルードを排出する。
3. ユニオンボルトを外し、ブレーキホースをキャリパー ASSY より取り外す。
4. トルクメンバーの取付ボルトを外し、キャリパー ASSY を車両より取り外す。
5. ディスクローターを取り外す。



取り付け

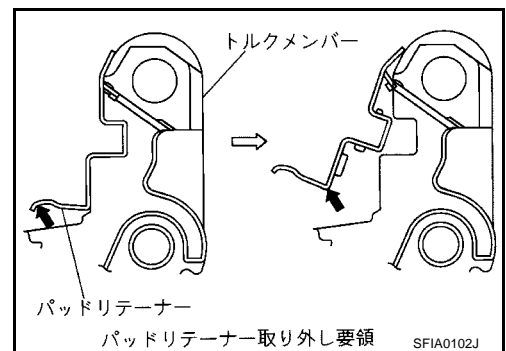
1. ディスクローターを取り付ける。
2. キャリパー ASSY を車両に取り付け、取付ボルトを規定トルクで締め付ける。
注意： トルクメンバーを車両に取り付ける際は、ナックルスピンドルのワッシャー座面及びトルクメンバー取付面の油脂分を拭き取ること。また、ダクロシムがトルクメンバーに取り付けられていること。
3. ブレーキホースをキャリパー ASSY の突起部に合わせて取り付け、ユニオンボルトを規定トルクで締め付ける。
注意：
 - ユニオンボルトの銅ワッシャーは再使用不可部品のため、再使用しないこと。
 - ブレーキホースをキャリパー ASSY 取付部の突起部に確実に組み付けること。
4. キャリパー ASSY 取付後、新品のブレーキフルードを補充しエア抜きを行う。「[注入及びエア抜き](#)」(BR-6 ページ)を参照すること。

キャリパー ASSY の分解、組み立て

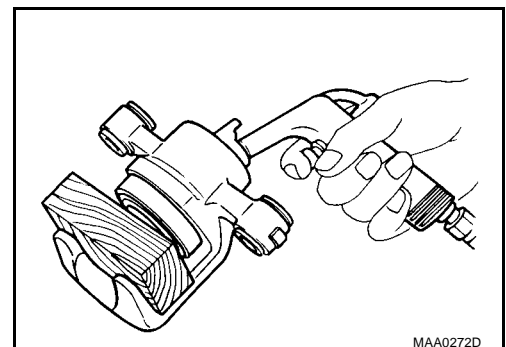
JFS0025L

分解

1. キャリパー ASSY を車両より取り外す。
2. シリンダーボディよりスライドピンボルトを外し、トルクメンバーよりパッド、シム、シムカバー及びパッドリテーナーを取り外す。
注意： パッドリテーナーをトルクメンバーより取り外す際は、パッドリテーナーを変形させないよう図のように矢印方向に持ち上げて取り外す。



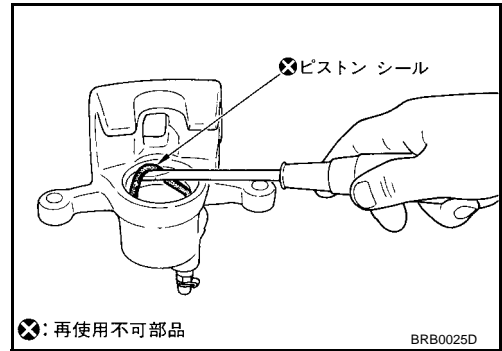
3. トルクメンバーよりスライドピン及びスライドピンブーツを取り外す。
4. 図のように木片を挟み、ユニオンボルトの取付穴よりエアを吹き込み、ピストンとピストンブーツを取り外す。



フロントディスクブレーキ

5. マイナスドライバーを用いて、シリンダーボディよりピストンシールを取り外す。

注意：シリンダー内面に傷を付けないこと。



キャリパーの点検

シリンダーボディ

注意：洗浄するときは、新品のブレーキフルードを使用し、ガソリン又は、灯油のような鉱物油類での洗浄は絶対に行わないこと。

- シリンダー内壁にさび、摩耗、損傷がないか点検し、異常がある場合はシリンダーボディを交換する。
- 錆や異物による微かな傷は、細かいサンドペーパーで表面を磨くことで取除くことができる。必要なら、シリンダーボディを交換する。

トルクメンバー

摩耗、亀裂又は損傷がないか点検し、異常がある場合は交換する。

ピストン

ピストンの表面にさび、摩耗、損傷がないか点検し、異常がある場合は交換する。

注意：ピストンの表面には、メッキ加工をしているため、サンドペーパーでの修正は行わないこと。

スライドピン・ピンボルト・ピンブーツ

スライドピン及びスライドピンブーツに摩耗、損傷、ひびがないか点検し、異常がある場合は交換する。

ディスクローターの点検

目視点検

ディスクローター表面の偏摩耗、ひび割れ又は著しい損傷がないか点検し、異常がある場合は交換する。

振れ点検

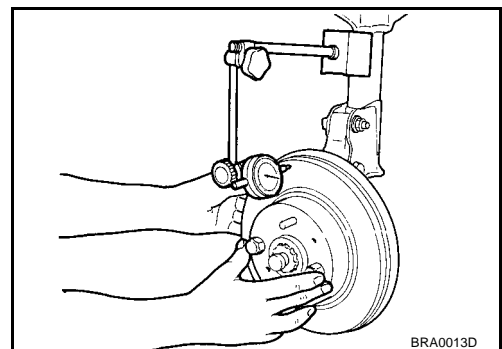
- ホイールハブにディスクローターをホイールナット等を用いて固定する。(最低2ヶ所)
- ダイヤルゲージを用いて振れを点検する。

測定箇所 : ディスク外周より 10mm 内側

振れ限度 : 0.07mm 以下

注意：測定前にアクスルのエンドプレーが0mmであることを確認すること。

- 振れが限度値を外れる場合、ディスクローターとホイールハブの取付位置を1穴ずつ変えて取り付け、振れの最小値の位置を探す。

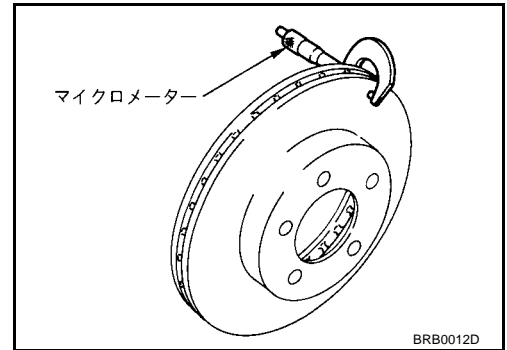


フロントディスクブレーキ

厚さ点検

ディスクローターの厚さをマイクロメーターを用いて点検し、基準値を外れる場合は交換する。

型式	CLZ25VD
標準厚さ	: 24.0mm
摩耗限度厚さ	: 22.0mm
偏摩耗量 (測定位置 8 箇所)	: 0.015mm 以下



フロントディスクの研削

注意: 作業を行う前にディスクローターの厚さを点検し、限度厚さプラス 0.3mm 以上あることを確認する。

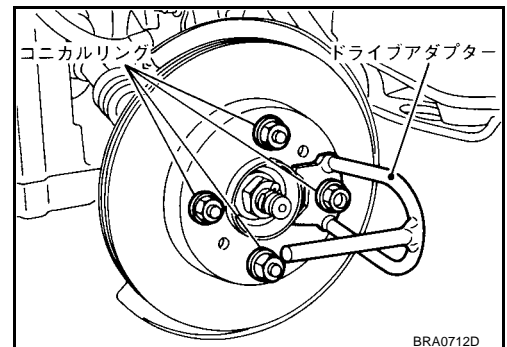
- 研削中は、防じんマスク、防じんメガネを使用すること。
- 研削粉の清掃は、集じん機を使用しエアブローなどで飛散させないこと。
- 作業中回転体にはさみ込まれないように注意すること。

1. ギヤ位置をニュートラル又は、N レンジで車両をリフトアップし、ホイールベアリングにガタがないことを点検後、ホイールを取り外す。
2. ブレーキキャリパー ASSY をステアリングナックルより取り外し、じゃまにならない所へ吊るしておく。

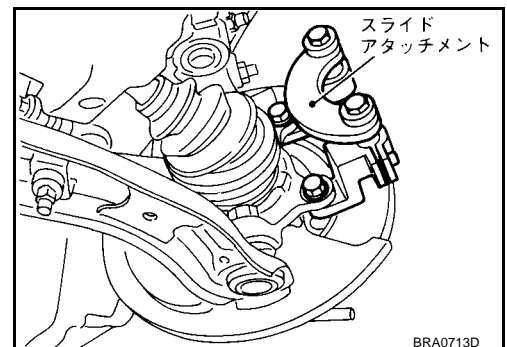
注意: ブレーキキャリパーを外している間は、ブレーキペダルを踏まないこと。

3. ドライブアダプター (汎用工具: WS3031 0000 のセット部品) をディスクローターに取り付け、コニカルリング及びホイールナットで締め付ける。このときホイールナットは、全数取り付けること。

注意: ドライブアダプター (汎用工具) を取り付ける際は、ハブセンター軸上に合わせること。

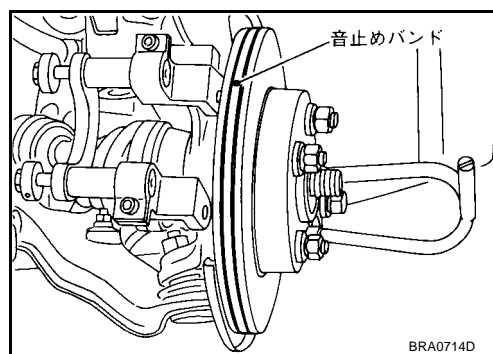


4. スライドアタッチメント (汎用工具: WS3030 0700) をステアリングナックルのブレーキキャリパー ASSY 取付部に取り付ける。

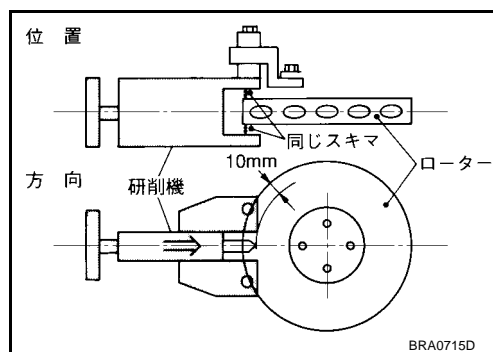


フロントディスクブレーキ

5. ディスクローターのベンチ部に音止めゴムバンド（汎用工具：WS3031 0000 のセット部品）を取り付ける。

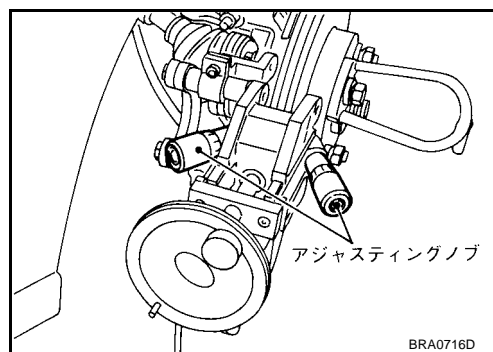


6. 下記に注意し研削機をディスクローターにセットする。
- 研削機中心にディスクローター中心が位置するようにスライドさせる。
 - バイトの送り方向をディスクローターの回転軸に合わせる。



7. 研削機のアジャスティングノブを回し、ディスクローターの外周約 10mm 内側の位置にバイトを接触させる。このときディスクローターを手で回転させながら行うこと。

参考：バイトがディスクローターに接触すると軽い研削音が発生する。



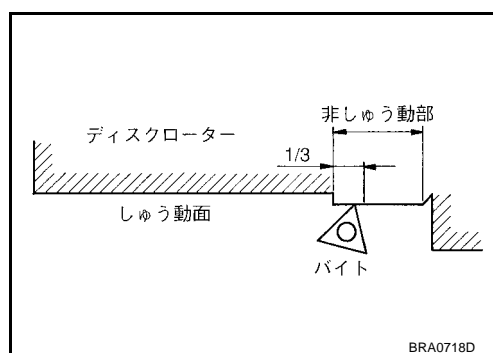
8. バイトを研削開始位置(内周の非しゅう動部の 1 / 3)移動させる。

9. ドライブユニット（汎用工具：WS3031 0000 のセット部品）をドライブアダプター（汎用工具：WS3031 0000 のセット部品）にセットする。

注意： ディスクローター回転軸とモーター回転軸が同軸上になるように高さと方向を調整（回転が安定する）すること。

10. ドライブユニットを回転させながら研削機の表裏 0.05mm の切り込み深さで(ダイヤル 1/2 目盛り進め)外周方向に向けて切削する。

注意： 外周から中心に向けて自動にて切削しないこと。



11. 全面加工が終了後、研削機のダイヤルを表裏 0.02mm（約 1/4 目盛り進め）外周方向に向けて再研削する。

12. 仕上げに #500 番のサンドペーパー（平板を当てる）を軽く 10 秒間押し付ける。

13. ダイヤルゲージを用いて、外周部より 10mm 内側の位置で振れ限度値以内であるか確認する。

14. ディスクローターを取り外し、センサーローター及び車輪回転センサー部の切削粉を集じん機などで取り除く。

注意：

- ディスクローターを取り外す際は、ディスクローターとホイールハブに合いマークを付けること。
- エアブローなどで飛散させないこと。
- 特に車輪回転センサーは、付着量が多いので（磁気を帯びているため）忘れずに除去すること。

フロントディスクブレーキ

15. 音止めゴムバンドをディスクローターより取り外す。

16. ディスクローター、ブレーキキャリパー及びホイールを取り付ける。

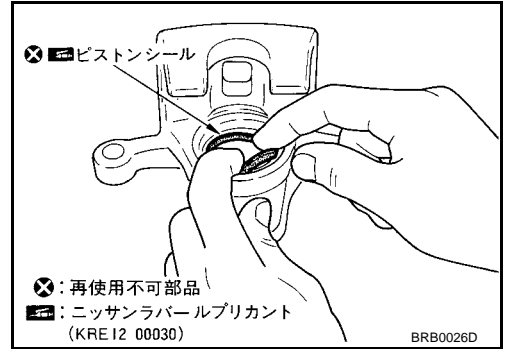
注意： ディスクローターを取り付ける際は、取り外し時に付けた合いマークに合せること。

組み立て

注意： 組み立ての際は、ニッサンラバーグリース (KRE00 00010、KRE00 00010 01) は使用しないこと。

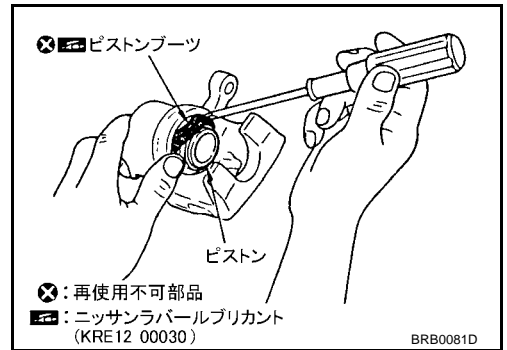
1. ピストンシールにニッサンラバーグリース (KRE12 00030) を塗布してシリンダーボディに取り付ける。

注意： ピストンシールは再使用不可部品のため、再使用しないこと。



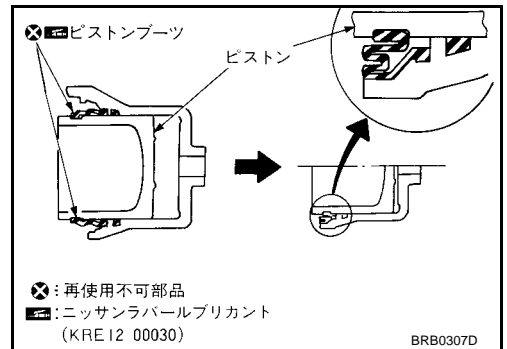
2. ピストンブーツにニッサンブレーキフルード No.2500 又はニッサンラバーグリース (KRE12 00030) を塗布し、ピストン先端部にピストンブーツをかぶせ、ピストンブーツのシリンダー側リップ部をシリンダーボディの溝に正規に取り付ける。

注意： ピストンブーツは再使用不可部品のため、再使用しないこと。



3. ピストンにニッサンブレーキフルード No.2500 を塗布しシリンダーボディへ手で押し込み、ピストンブーツのピストン側リップ部をピストンの溝に正規に組み付ける。

注意： ピストンを押し込む際は、ピストンでシリンダー内壁をこじらないように押す位置を変えながら均一に押し込むこと。



4. トルクメンバーにスライドピン及びスライドピンブーツを取り付ける。

5. トルクメンバーをナックルスピンドルに取り付け、取付ボルトを規定トルクで締め付ける。

注意： トルクメンバーを車両に取り付ける際は、ナックルスピンドルのワッシャー座面及びトルクメンバー取付面の油脂分を拭き取ること。また、ダクロシムがトルクメンバーに取り付けられていること。

6. トルクメンバーにパッドリテーナーを取り付ける。

7. シム、シムカバーをパッドに組み付け後、トルクメンバーに取り付ける。

8. シリンダーボディを取り付けスライドピンボルトを規定トルクで締め付ける。

9. シリンダーボディにブレーキホースを取り付け、ユニオンボルトを規定トルクで締め付ける。

注意： ・ブレーキホースはシリンダーボディの突起部に確実に組み付けること。

・ユニオンボルトの銅ワッシャーは再使用不可部品のため、再使用しないこと。

フロントディスクブレーキ

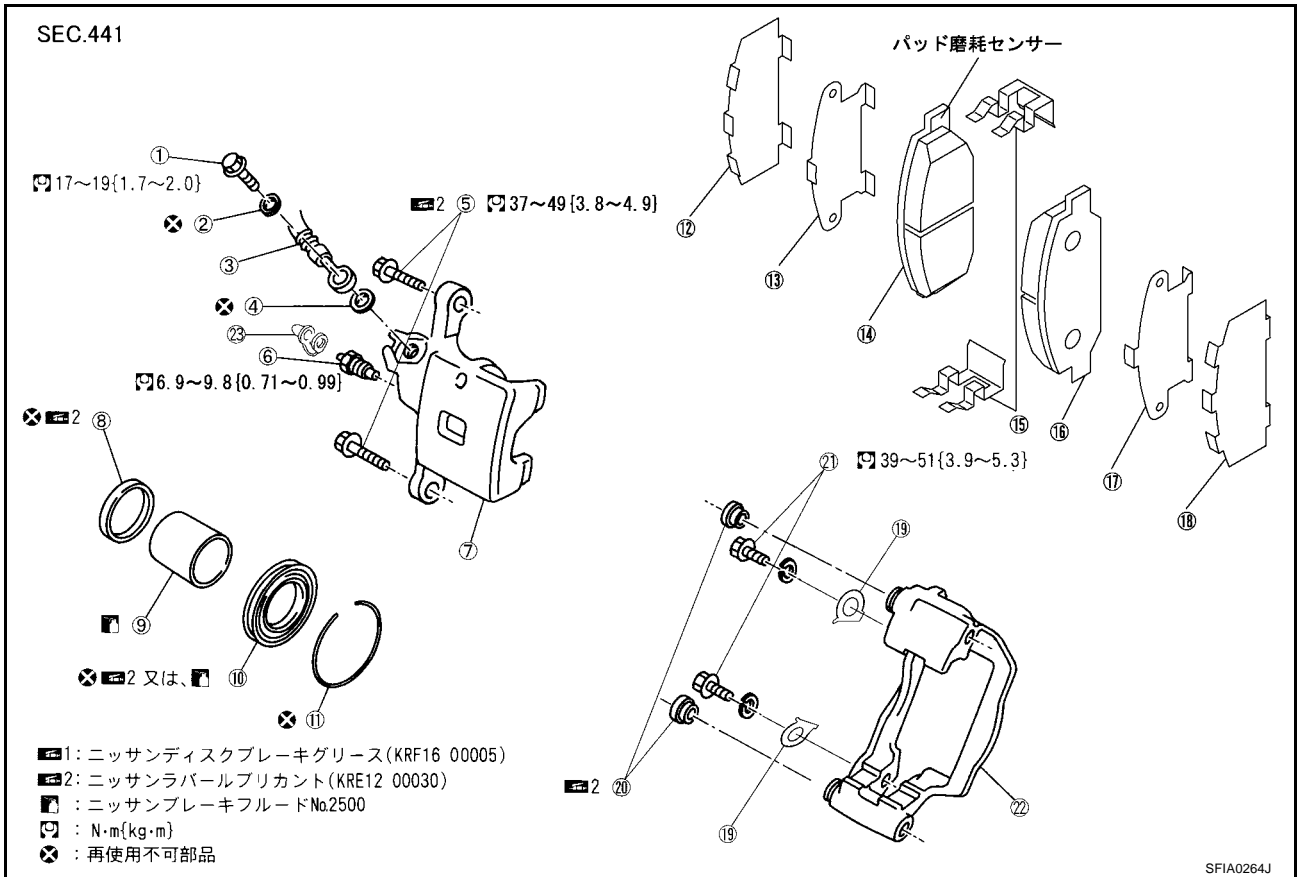
10. キャリパー ASSY 取り付け後、新品のブレーキフルードを補充しエア抜きを行う。[「注入及びエア抜き」\(BR-6 ページ\)](#)を参照すること。

リヤディスクブレーキ

PFPA:41000

構成図 (AD14VE 型)

JFS0025M



- | | | |
|--------------|---------------|------------------|
| 1. ユニオンボルト | 2. 銅ワッシャー | 3. ブレーキホース |
| 4. 銅ワッシャー | 5. スライドピン | 6. エアブリーダー |
| 7. シリンダーボディー | 8. ピストンシール | 9. ピストン |
| 10. ピストンブーツ | 11. リテーニングリング | 12. インナーシムカバー |
| 13. インナーシム | 14. インナーパッド | 15. パッドリテーナー |
| 16. アウターパッド | 17. アウターシム | 18. アウターシムカバー |
| 19. ダクロシム | 20. スライドピンブーツ | 21. トルクメンバー取付ボルト |
| 22. トルクメンバー | 23. キャップ | |

- 注意:**
- キャリパー及びパッドに付着した粉じんは、集じん機で集め清掃する。エアブローなどで飛散させないこと。
 - シリンダーボディーを外している間、ピストンが急に飛び出す恐れがあるため、ブレーキペダルを絶対に踏み込まないこと。
 - キャリパー ASSY の分解又は交換を除いては、トルクメンバー及びブレーキホースの取付ボルトを取り外す必要はない。なお、このときブレーキホースを引き伸ばさないようにシリンダーボディーを針金などで吊るしておくこと。
 - ピストンブーツに損傷を与えないこと。
 - ブレーキパッドを交換するときは、シム及びシムカバーをセットで交換すること。
 - ブレーキフルードをローターに付着させないこと。

車載上の点検、整備

JFS0025N

交換時期 (ディスクキャリパーのピストンシール及びダストシール)

- 自家用 : -
 事業用 (レンタカーを含む) : 2年ごと

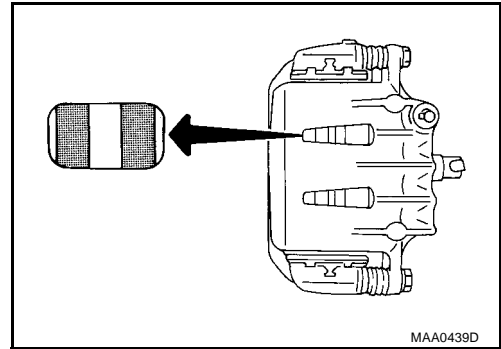
リヤディスクブレーキ

パッドの摩耗点検

- リフトアップなどの状態で、ホイールを取り外しシリンダーボディの点検穴から、パッドの厚さを点検する。また、必要に応じてスケールなどにより点検する。

リヤブレーキパッド

AD14VE	標準厚さ	: 8.5mm
	限度厚さ	: 2.0mm



ブレーキパッドの取り外し、取り付け

JFS00250

取り外し

- 注意:**
- キャリパー及びパッドに付着した粉じんは、集じん機で集め清掃する。エアブローなどで飛散させないこと。
 - シリンダーボディを外している間、ピストンが飛び出す恐れがあるため、ブレーキペダルを絶対に踏み込まないこと。
 - キャリパー ASSY の分解又は交換を除いては、トルクメンバー及びブレーキホースの取付ボルトを取り外す必要はない。また、このときブレーキホースを引き伸ばさないようにシリンダーボディを針金などで吊るしておくこと。
 - シムに著しいさびの発生がある場合は新品に交換すること。
 - ブレーキパッドを交換するときは、必ずシム、シムカバーをセットで交換すること。

1. スライドピン（上側1本）を取り外す。
2. シリンダーボディを針金などで吊しパッド、パッドリテーナー及びシムをトルクメンバーより取り外す。

- 注意:**
- ピストンブーツに損傷を与えないこと。
 - ブレーキフルードをローターに付着させないこと。

取り付け

1. パッドの裏側とシム両面に、ニッサンディスクブレーキグリース（KRF16 00005）を塗布し、インナーシム、シムカバーをインナーパッドにアウターシム、アウターシムカバーをパッドに取り付ける。
2. トルクメンバーにパッドリテーナー及びパッドを取り付ける。
3. シリンダーボディをトルクメンバーに取り付ける。

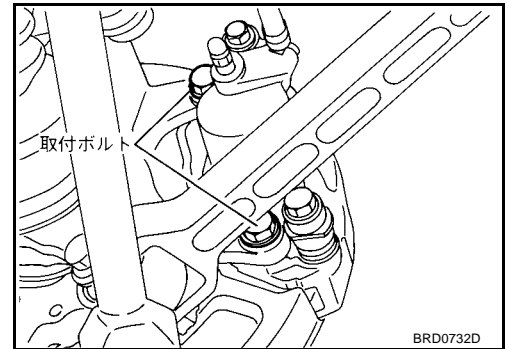
注意: パッドを新品に交換する場合、パッドが取り付けられる位置までピストンを押し込むことにより、ブレーキフルードがマスターシリンダーのリザーバタンクに戻るため、リザーバタンクのブレーキフルードのレベルに注意すること。
4. スライドピン（上側1本）を挿入し、規定トルクで締め付ける。
5. ブレーキの引きずり点検を行う。

キャリパー ASSY の取り外し、取り付け

JFS0025P

取り外し

1. エアブリーダーにビニールチューブを接続する。
2. ブレーキペダルを踏み込み、エアブリーダーより徐々にブレーキフルードを排出する。
3. ユニオンボルトを外し、ブレーキホースをキャリパー ASSY より取り外す。
4. トルクメンバーの取付ボルトを外し、キャリパー ASSY を車両より取り外す。
5. ディスクローターを取り外す。



取り付け

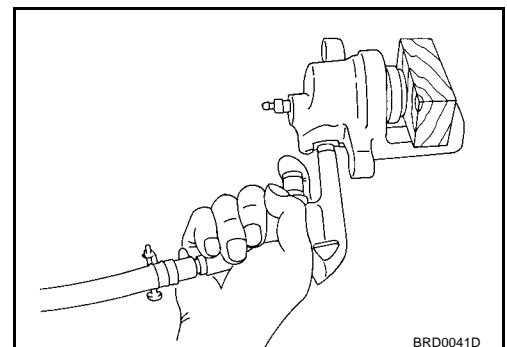
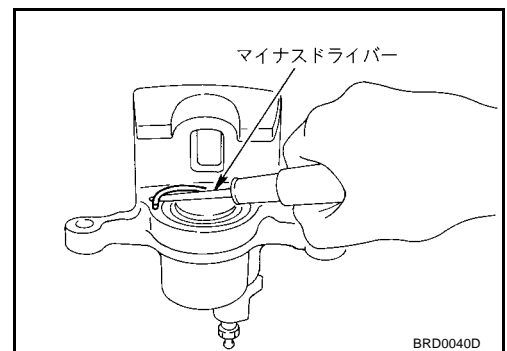
1. ディスクローターを取り付ける。
2. キャリパー ASSY を車両に取り付け、取付ボルトを規定トルクで締め付ける。
注意： キャリパー ASSY を車両に取り付ける際は、アクスル ASSY のワッシャー座面及びキャリパー ASSY 取付面の油脂分をふき取ること。また、ダクロシムがトルクメンバーに取付けられていること。
3. キャリパー ASSY にブレーキホースを取り付けユニオンボルトを規定トルクで締め付ける。
注意：
 - ユニオンボルトの銅ワッシャーは再使用不可部品のため、再使用しないこと。
 - ブレーキホースをキャリパー ASSY 取付部の突起部に確実に組み付けること。
4. キャリパー ASSY 取付後、新品のブレーキフルードを補充しエア抜きを行う。「[注入及びエア抜き](#)」(BR-6 ページ)を参照すること。

キャリパー ASSY の分解、組み立て

JFS0025Q

分解

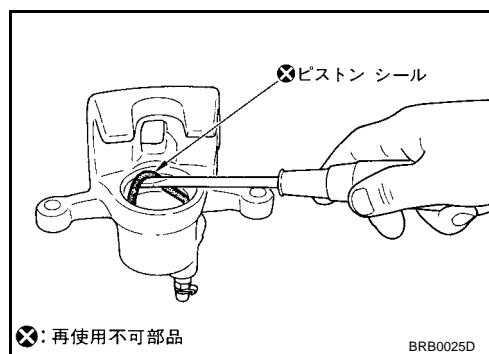
1. キャリパー ASSY を車両より取り外す。
2. スライドピンを外し、キャリパー ASSY より、パッド、シム、シムカバー及びパッドリテーナーをシリンダーボディーより取り外す。
3. スライドピンブーツをトルクメンバーより取り外す。
4. 図のようにマイナスドライバーを用いて、リテーニングリングをシリンダーボディーより取り外す。
5. 図のように木片を挟み、ユニオンボルトの取付穴よりエアを吹き込み、ピストンとピストンブーツを取り外す。



リヤディスクブレーキ

6. マイナスドライバー等を用いて、ピストンシールをシリンダーボディより取り外す。

注意：シリンダー内面に傷を付けないよう注意すること。



キャリパーの点検

シリンダーボディ

注意：洗浄するときは、新品のブレーキフルードを使用し、ガソリン又は、灯油のような鉱物油類での洗浄は絶対に行わないこと。

- シリンダー内壁にさび、摩耗、損傷がないか点検し、異常がある場合はシリンダーボディを交換する。
- 錆や異物による微かな傷は、細かいサンドペーパーで表面を磨くことで取除くことができる。必要なら、シリンダーボディを交換する。

トルクメンバー

摩耗、亀裂又は損傷がないか点検し、異常がある場合は交換する。

ピストン

注意：ピストンの表面には、メッキ加工をしているため、サンドペーパーでの修正は行わないこと。

ピストンの表面にさび、摩耗、損傷がないか点検し、異常がある場合は交換する。

スライドピン・ピンブーツ

スライドピン及びスライドピンブーツに摩耗、損傷、ひびがないか点検し、異常がある場合は交換する。

ディスクローターの点検

目視点検

ディスクローター表面の偏摩耗、ひび割れ又は著しい損傷がないか点検し、異常がある場合は交換する。

振れ点検

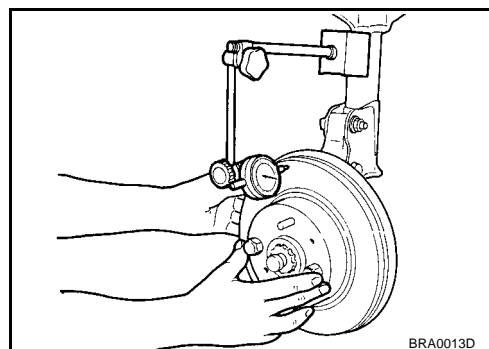
- ホイールハブにディスクローターをホイールナット等を用いて固定する。(最低2ヶ所)
- ダイヤルゲージを用いて振れを点検する。

測定箇所 : ディスク外周より 10mm 内側

振れ限度 : 0.10mm 以下

注意：測定前にアクスルのエンドプレーが0mmであることを確認すること。

- 振れが限度値を外れる場合、ディスクローターとホイールハブの取付位置を1穴ずつ変えて取り付け、振れの最小値の位置を探す。

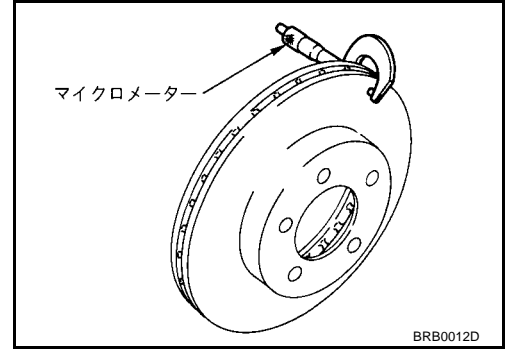


リヤディスクブレーキ

厚さ点検

ディスクローターの厚さをマイクロメーターを用いて点検し、基準値を外れる場合は交換する。

標準厚さ	: 16.0mm
摩耗限度厚さ	: 14.0mm
偏摩耗量 (測定位置 8 箇所)	: 0.015mm 以下

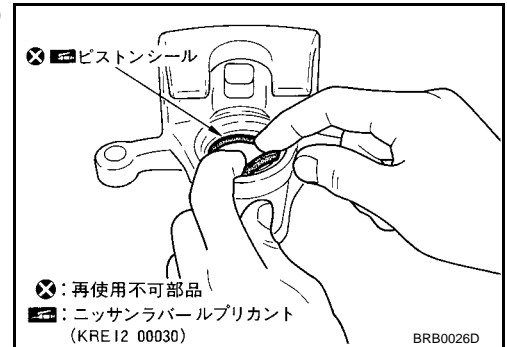


組み立て

注意: 組み立ての際は、ニッサンラバーグリース (KRE00 00010、KRE00 00010 01) は使用しないこと。

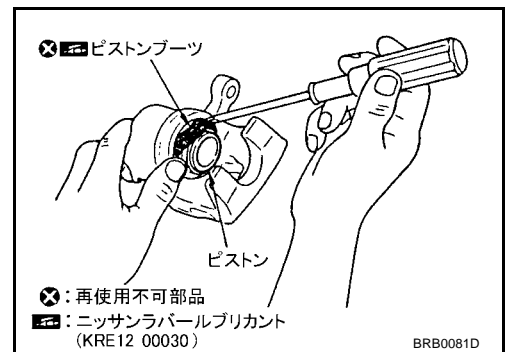
1. ピストンシールにニッサンラパールブリカント (KRE12 00030) を塗布してシリンダーボディに取り付ける。

注意: ピストンシールは再使用不可部品のため、再使用しないこと。



2. ニッサンブレーキフルード No.2500 又はニッサンラパールブリカント (KRE12 00030) をピストンブーツに塗布し、ピストンブーツをピストン先端部にかぶせ、ピストンブーツのシリンダー側リップ部をシリンダーボディの溝に正規に取り付ける。

注意: ピストンブーツは再使用不可部品のため、再使用しないこと。



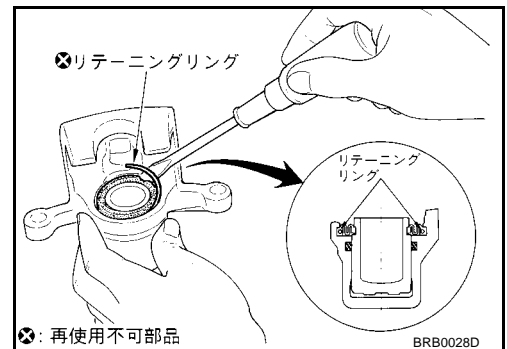
3. ピストンをシリンダーボディに手で押し込み、ピストンブーツのピストン側リップ部をピストンの溝に正規に組み付ける。

注意: ピストンを押し込む際は、ピストンでシリンダー内壁をこじらないように押す位置を変えながら均一に押し込むこと。

4. ピストンブーツをリテーニングリングで固定する。

注意:

- ブーツがシリンダーボディの溝に確実に入っていること。
- リテーニングリングは再使用不可部品のため、再使用しないこと。



5. トルクメンバーにスライドピン及びスライドピンブーツを取り付ける。

6. トルクメンバーをアクスル ASSY に取り付け、取付ボルトを規定トルクで締め付ける。

注意: トルクメンバーをアクスル ASSY に取り付ける際は、アクスル ASSY のワッシャー座面及びトルクメンバー取付面の油脂分を拭き取ること。また、ダクロシムをトルクメンバーに取り付けること。

7. トルクメンバーにパッドリテーナーを取り付ける。

リヤディスクブレーキ

8. シム、シムカバーをパッドに組み付け後、トルクメンバーに組み付ける。
9. シリンダーボディーを取り付け、スライドピンを規定トルクで締め付ける。
10. シリンダーボディーにブレーキホースを取り付け、ユニオンボルトを規定トルクで締め付ける。

注意：• ブレーキホースはシリンダーボディーの突起部に確実に組み付けること。
• ユニオンボルトの銅ワッシャーは、再使用不可部品のため、再使用しないこと。

11. キャリパー ASSY 取り付け後、新品のブレーキフルードを補充してエア抜きを行う。[「注入及びエア抜き」\(BR-6 ページ\)](#)を参照すること。

サービスデータ

サービスデータ ブレーキのきき具合

PF0:00030

JFS0025R

制動力

後輪和	軸重の 10% 以上
各輪左右差	軸重の 8% 以下
総和	検査時車両重量の 50% 以上

注意: 前軸のすべての車輪がロックし、計測困難な場合には、その状態で総和に対し、適合するとみなす。

ブレーキペダル

JFS0025S

遊び (ペダル上面で)	3 ~ 11mm
クレビスピン部ガタ (ペダル上面で)	1 ~ 3mm
ペダル高さ (ダッシュパネル上面から)	160 ~ 170mm
踏込時高さ (踏力 490N { 50kg }) (ダッシュパネル上面から)	75mm 以上
ストッパラバーとストップランプ SW 及びブレーキ SW のネジ部端面とのすき間 (mm)	0.74 ~ 1.96mm

チェックバルブ

JFS0025T

バキューム漏れ (負圧 66.7kPa { -500mmHg } 時)	15 秒間で負圧 1.3kPa { 10mmHg } 以内
-------------------------------------	-------------------------------

ブレーキブースター

JFS0025U

負圧式

バキューム漏れ (負圧 66.7kPa { -500mmHg } 時)	15 秒間で負圧 3.3kPa { 25mmHg } 以内	
インプットロッド取付基準寸法	車間自動制御システム 非装着車	125mm
	車間自動制御システム 装着車	126mm

フロントディスクブレーキ

JFS0025V

ブレーキ型式	CLZ25VD	
パッド	標準厚さ (新品時厚さ)	9.5mm
	限度厚さ	2.0mm
ディスクローター	標準厚さ (新品時厚さ)	24.0mm
	限度厚さ	22.0mm
	振れ限度	0.07mm 以下

リヤディスクブレーキ

JFS0025W

ブレーキ型式	AD14VE	
パッド	標準厚さ (新品時厚さ)	8.5mm
	限度厚さ	2.0mm
ディスクローター	標準厚さ (新品時厚さ)	16.0mm
	限度厚さ	14.0mm
	振れ限度	0.10mm 以下

サービスデータ

締付トルク

JFS0025X

単位：N·m { kg·m }

マスターシリンダー取付ナット	12 ~ 14 { 1.3 ~ 1.4 }
フロントキャリパー取付ボルト	152.1 ~ 154.9 { 15.6~15.7 }
リヤキャリパー取付ボルト	71.6 ~ 97.0 { 7.3~9.8 }
ブレーキチューブフレアナット	15 ~ 17 { 1.6 ~ 1.7 }